

スイッチ ON 磯子

令和3年～7年度

第4期磯子区地域福祉保健計画

誰もが幸せに暮らせるまちをみんなをめざす



磯子区内地域ケアプラザ（根岸、滝頭、磯子、屏風ヶ浦、新杉田、洋光台、上笹下）

横浜市磯子区役所 横浜市磯子区社会福祉協議会

「誰もが幸せに暮らせる磯子をめざして」

このたび策定いたしました「第4期磯子区地域福祉保健計画(スイッチON磯子)」では、「誰もが幸せに暮らせるまちをみんなでめざす」という基本理念を掲げ、地域の皆様をはじめ、関係団体・機関等が、それぞれの役割を發揮し、一体となって進めていくことを目指しています。

計画の策定にあたりましては、磯子区地域福祉保健計画策定・推進検討会の皆様はもとより、各地区でのワークショップや区民意見募集などを通じ、多くの区民の皆様から貴重なご意見をお寄せいただきました。ご協力をいただきました皆様に心から感謝申し上げます。

本計画の理念の実現を目指し、引き続き、ご支援、ご協力をお願いいたします。

磯子区長 猪俣 宏幸

「人と地域のつながりの再生に向けて」

これまで連合町内会、自治会などを中心に地域に根ざした活動を展開し、支えあいや健康づくり、災害時要援護者の対策など、様々な取組を推進してきました。

令和2年、コロナ禍で地域活動が制限されることが続きましたが、これからの5年間は、人や地域のつながりの再生に向け、第4期計画を今後の方針とし、地域の活動を進めていきたいと思えます。

そのためにも、この計画が、一人ひとりが自分の住んでいる町に興味をもち、できることをやってみようと一歩踏み出す「スイッチ」となることを期待しています。

連合町内会として、各地域の取組を支援していくとともに、区役所、区社会福祉協議会、地域ケアプラザと連携し、計画を推進していきます。

磯子区連合町内会長 三上 勇夫

「多様性を認めあい 支えあえるまちに」

私たち区社会福祉協議会は、地域福祉保健計画を中期活動計画としながら地域福祉の推進に取り組んでいます。

第4期計画では「多様性」や「つながり」などをキーワードにした3つの基本目標を掲げ、区全域計画はもとより、各地区での話合いによって策定された地区別計画においても、この基本目標の推進に向けた取組を進めていくこととしています。

多くの方々のご意見を頂戴しながら完成したこの計画を、区民のどなたにも関わりのある計画であると身近に感じていただくとともに、地区社協や関係団体等の皆様にも今後5年間の活動の指標としてご活用いただけるよう願っております。

社会福祉法人横浜市磯子区社会福祉協議会会長 小宮山 滋

目次 | CONTENTS

1章

第4期計画策定にあたって

- 1. 地域福祉保健計画とは..... 1
- 2. データからみる磯子区の現状..... 4
- 3. 第3期計画から第4期計画へ..... 8
- *コラム 新型コロナウイルス感染症による影響12

2章

第4期磯子区地域福祉保健計画「スイッチON 磯子」

- 1. 基本理念と基本目標.....13
- 2. 区全域計画.....15
 - 基本目標Ⅰ 共に支えあうお互いさまのまち.....17
 - 基本目標Ⅱ 自分らしく健やかに暮らせるまち.....23
 - 基本目標Ⅲ 多様性を認めあい 活動が広がり つながりのあるまち.....29
- 3. 地区別計画.....37
 - 9地区の地区別計画39
- *地域で活動する関係機関や各種団体の紹介57

3章

「スイッチON 磯子」の進め方

- 1. 計画の推進に向けて.....61
- 2. 計画の振り返りとスケジュール.....64

4章

資料

- 1. 策定の経過.....65
- 2. 用語解説.....69
- *地域ケアプラザの紹介72

案内役 | GUIDE

磯子区地域福祉保健計画、案内役「梅さん」です！

4期計画もわかりやすく案内します。



<梅さんのプロフィール>

生年月日.....平成18年4月1日(磯子区地域福祉保健計画の開始日)
身長.....30cm
体重.....3kg
好きな言葉.....人情
趣味.....人と集い、遊ぶこと
嫌いな言葉.....ひとりぼっち
特技.....みんなを笑顔で元気にすること

1. 地域福祉保健計画とは

■はじめに

地域福祉保健計画は、「地域共生社会」の考え方のもと、地域の様々な人や団体がつながりあい、誰もが安心して自分らしく健やかに暮らせる地域社会を目指して進めていく計画です。

少子高齢化や住民同士のつながりの希薄化、子育てのしづらさや社会的孤立等、自分や家族だけでは解決できないことが増えています。多様化する地域の課題に対し、人と人、人と地域社会にある様々な社会資源がつながり、支えあいながら幸せに暮らせる地域をつくっていくことが大切です。

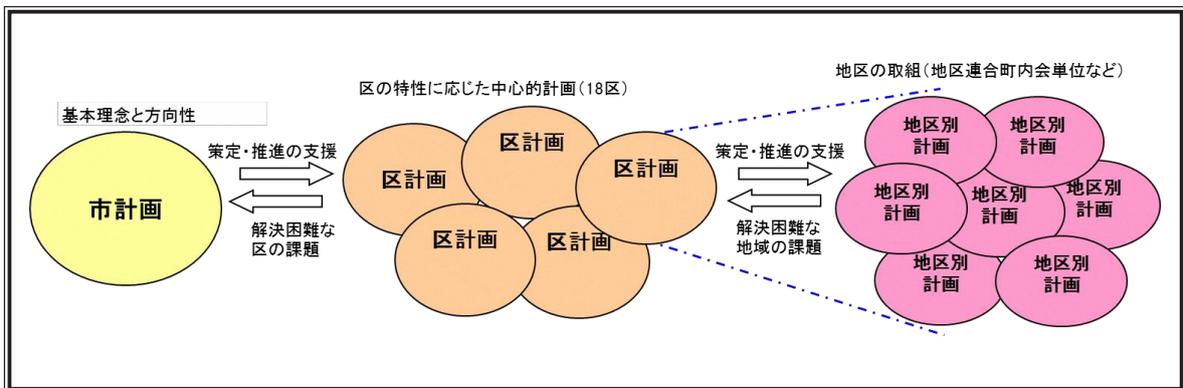
■地域福祉保健計画の位置付け

社会福祉法107条で、地域福祉の推進に関する事項を定める計画として「市町村地域福祉計画」が位置付けられており、横浜市では福祉と保健の取組を一体的に進めていくため、『地域福祉保健計画』を策定しています。

●市計画・区計画の関係性

横浜市の地域福祉保健計画は、市計画、18区の区計画及び地区別計画で構成しています。市計画は横浜市全体の基本理念と方向性を示し区計画の推進を支援する計画です。

<市計画・区計画の関係性(イメージ図)>



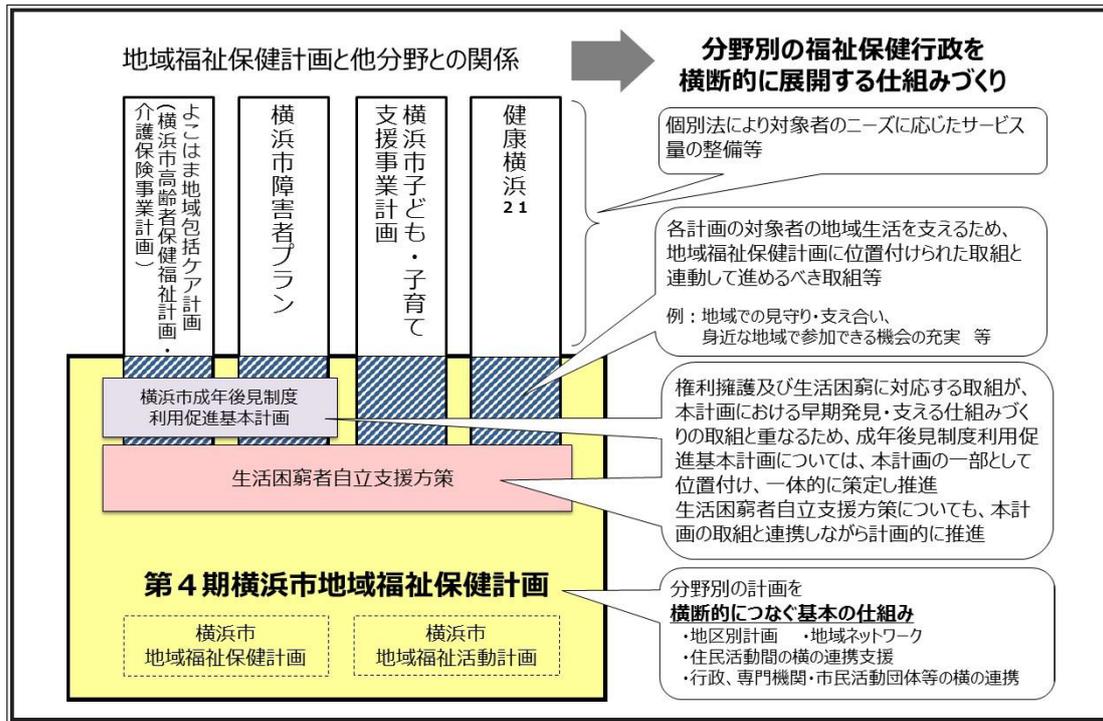
※「第4期横浜市地域福祉保健計画」より

●他計画との関係性

横浜市には、各法を根拠とする福祉保健の分野別計画として以下の計画があります。

よこはま地域包括ケア計画(高齢)	横浜市障害者プラン(障害)
横浜市子ども・子育て支援事業計画(子ども・子育て)	健康横浜21(健康づくり)

地域福祉保健計画は、各分野別計画の取組を横断的に捉え、それぞれの計画に共通する理念、方針、取組推進の方向性を示し、地域生活の充実を図ることを目指しています。第4期計画からは、権利擁護及び生活困窮に対する取組が、地域福祉保健計画の早期発見・支える仕組みづくりと重なるため、一体的に推進していきます。



※「第4期横浜市地域福祉保健計画」より

コラム | column

地域共生社会の考え方

かつては地域や家族同士の助けあいなど、生活の様々な場面において、支えあいの機能が存在しました。しかし、高齢化や人口減少を背景に、社会経済の担い手が減り、支えあいの基盤や人と人とのつながりが弱まるなど、社会のあり方が変化しています。8050 問題やダブルケア、いわゆるごみ屋敷、子どもの貧困など、暮らしの中にある問題は複雑化・多様化しています。また、空き家や商店街の空き店舗などの課題も顕在化しています。そこで、国では地域福祉の推進の方針として、『地域共生社会』の考え方を示しました。福祉保健分野にとらわれず、様々な主体が課題を「我が事」としてとらえ、お互いに協力しながら地域を基盤として解決していくことが求められています。

地域共生社会 とは

制度や分野ごとの「縦割り」や「支え手」「受け手」という関係を越えて、地域住民や多様な主体が「我が事」として参画し、人や資源が世代や分野を越えて「丸ごと」つながることで、一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会

コラム | column

「権利擁護(けんりようご)ってなあに？」

人は皆、「人権」という、一人ひとりがかけがえのない個人として尊重される権利をもっています。しかし、子どもや障害者、高齢者、また外国人等、自分自身の意思、思いをうまく表現できない人がいます。権利擁護とは、自己決定や自立の支援のために権利を守ることです。みんなが幸せになる権利がある、自分だけでなく、みんなを幸せにするために権利は尊重される、という意味において権利擁護と地域福祉保健計画は密接に関係しています。

■磯子区地域福祉保健計画「スイッチ ON 磯子」について

●「スイッチ ON 磯子」とは

「スイッチ ON 磯子」とは、磯子区地域福祉保健計画の愛称で、第1期の計画から地域の方に親しまれています。『一人ひとりが何かを始めるきっかけとなるようにスイッチを押す』という意味が込められています。以下、磯子区地域福祉保健計画＝「スイッチ ON 磯子」と呼びます。

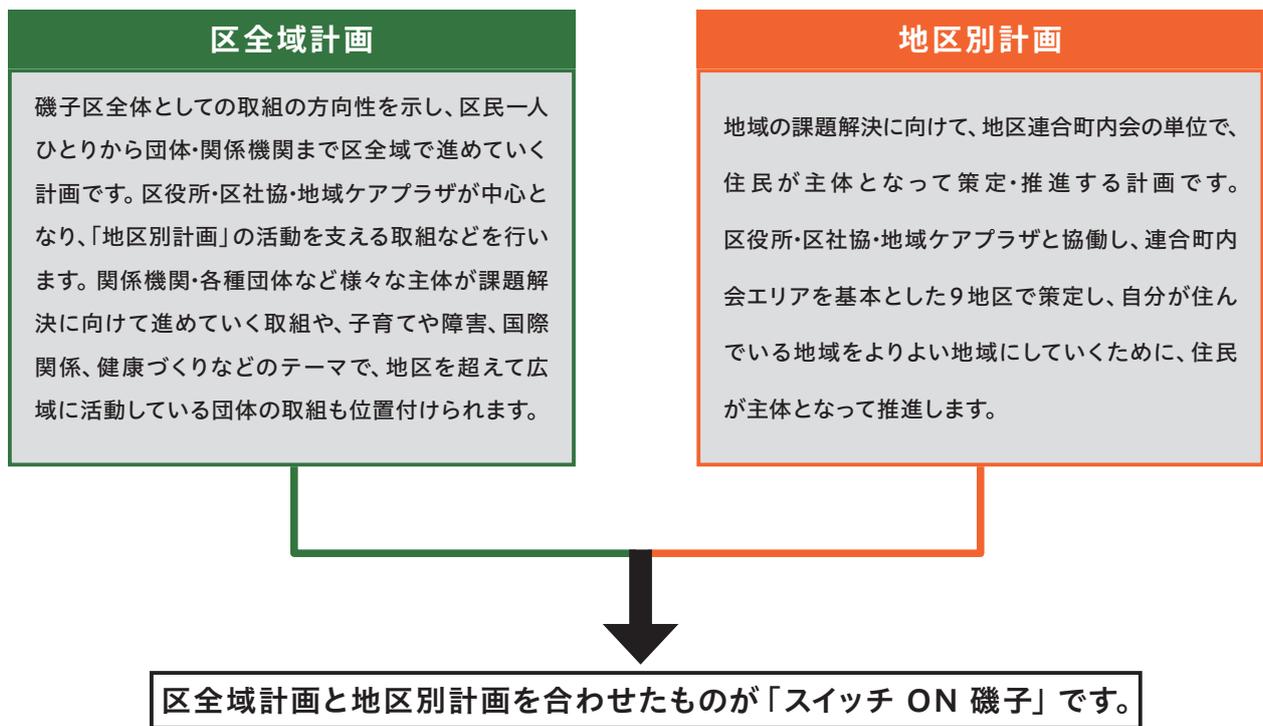
たくさんの方がこの計画を意識して、スイッチを押す仲間になってほしいな!

●この計画は誰が進めていくの

住民のみなさん、自治会町内会やボランティアなどの地域団体、関係機関、企業、地域ケアプラザ、区役所、区社会福祉協議会(以下、区社協)など、全ての人や団体が、この計画を進めていく主体です。(P.13参照)



●計画の構成



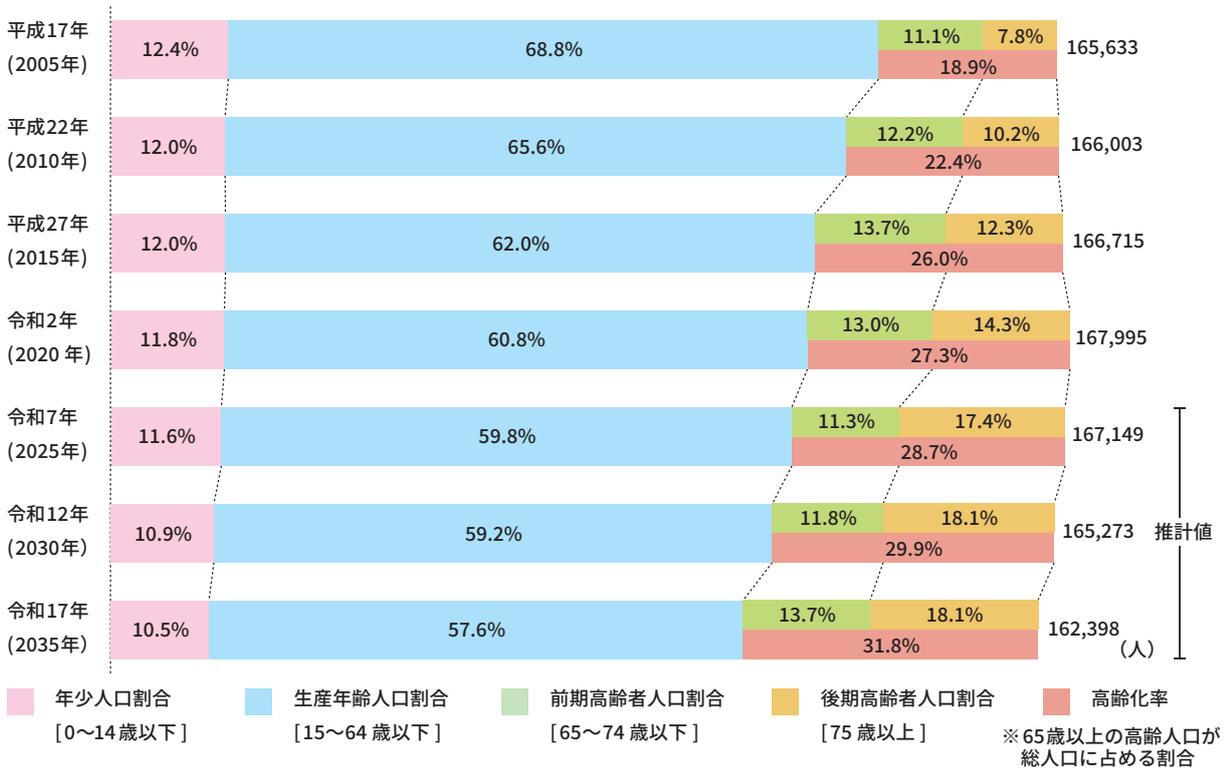
●計画期間

第1期の計画から5年ごとに計画を策定し、令和3年度からの5年間は第4期計画の期間となります。



2.データからみる磯子区の現状

■年齢別人口割合(4区分)の推移



単位：人

	平成17年 (2005年)	平成22年 (2010年)	平成27年 (2015年)	令和2年 (2020年)	令和7年 (2025年)	令和12年 (2030年)	令和17年 (2035年)
総人口	165,633	166,003	166,715	167,995	167,149	165,273	162,398
後期高齢者人口 [75歳以上]	12,858	16,867	20,450	24,080	29,002	29,960	29,423
前期高齢者人口 [65~74歳以下]	18,319	20,309	22,898	21,914	18,866	19,461	22,240
生産年齢人口 [15~64歳以下]	113,933	108,870	103,347	102,161	99,963	97,856	93,607
年少人口 [0~14歳以下]	20,523	19,957	20,020	19,840	19,318	17,996	17,128

出典：2005～2020年：横浜市統計ポータルサイト 住民基本台帳（各年3月末現在）
2025～2035年：横浜市将来人口統計

推計値

チェック | check

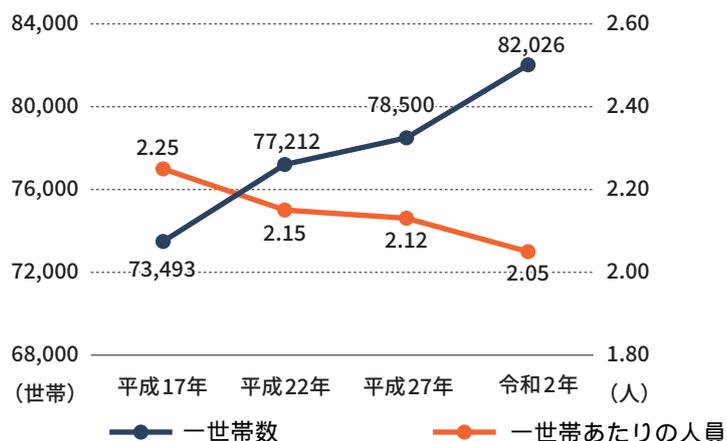
- ・磯子区の人口は令和2年3月末現在、167,995人であり、今後緩やかな減少傾向が続くことが予想されます。
- ・年少人口が減少する一方、65歳以上の高齢者人口が増加していくことで、少子高齢化が進行するとともに、生産年齢人口の減少も進んでいきます。
- ・磯子区は横浜市全体と比べて高齢化率が高く、75歳以上高齢者（後期高齢者）が65歳～74歳（前期高齢者）を上回っています。この傾向は今後も続き、令和17年度には人口の約3人に1人が高齢者となることが推測されています。

だからこそ地域で支えあったりつながったりする活動が必要なのかな。そのためには地域福祉保健計画が重要だね。



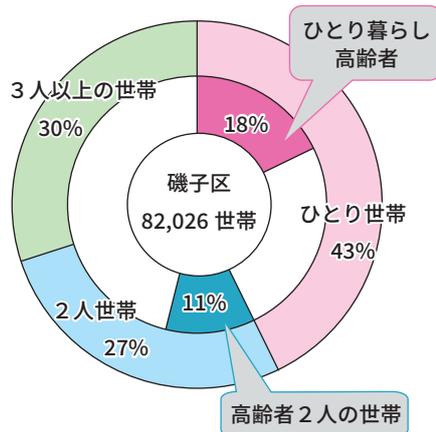
■世帯の状況

● 磯子区の世帯数と世帯あたり人員数の推移



出典：横浜市統計ポータルサイト住民基本台帳（各年3月末現在）

● 磯子区の世帯類型割合(令和2年3月31日現在)



ひとり暮らしと2人暮らしが7割を占めているんだね。災害時や困ったときのために誰かとつながっていることが重要になっていくのかな。



チェック | check

- ・磯子区の世帯数は増加しており、年代に関わらず単独世帯や2人のみの世帯といった少人数の世帯が増えています。
- ・右側の世帯タイプのグラフでは、5世帯に1世帯が65歳以上ひとり暮らしの高齢者であり、高齢者2人のみの世帯も加えると全世帯の3割を占めていることがわかります。

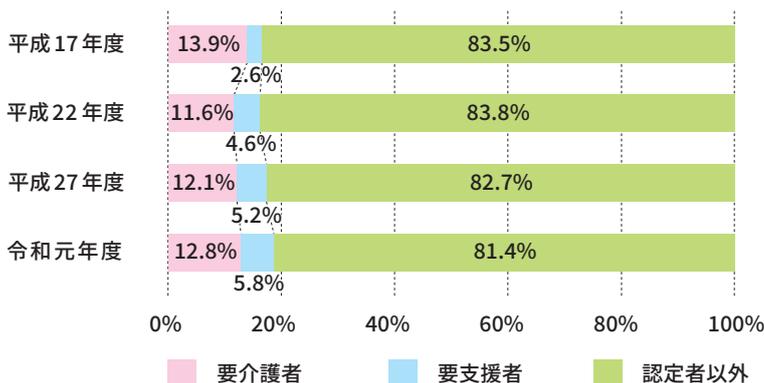
■要介護認定者割合（要介護・要支援）

要介護認定割合とは、65歳以上の人口(介護保険第一号被保険者数)を分母とし、要介護認定を受けている人の割合をいいます。

	要介護者数	要支援者数
平成22年度	4,364	1,735
平成27年度	5,414	2,310
令和元年度	5,916	2,690

(人)

出典：磯子区の福祉と保健衛生（各年度3月末現在）



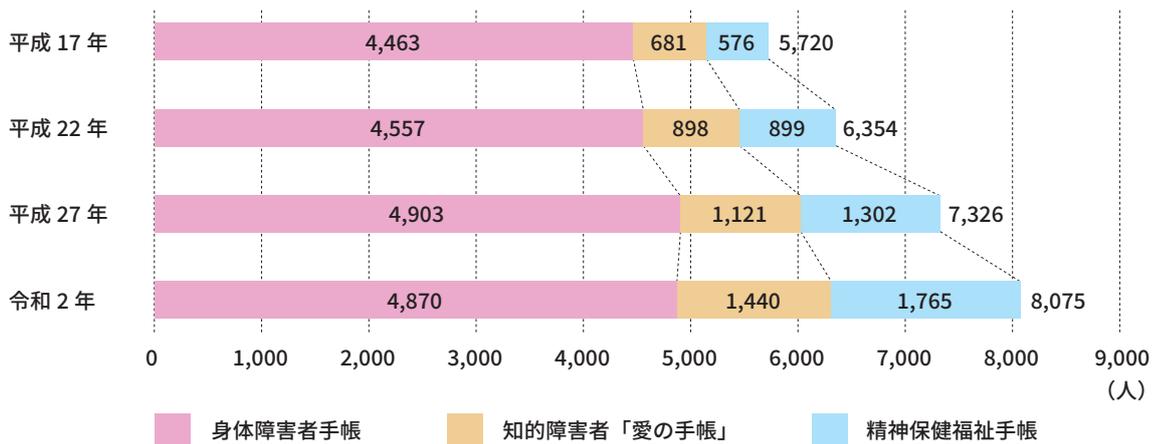
チェック | check

- ・後期高齢者の増加に伴い、要介護認定者数の割合は増えています。
- ・一方で、介護サービスを利用せずに生活している高齢者も8割以上います。

要介護認定を受けている人が増えているけど、元気な高齢者も多いね。介護予防や地域活動に参加しやすくする取組を進めて、いきいきと生活を送る高齢者が増えていくといいなあ。



■ 障害者手帳の所持者数の推移



出典：磯子区の福祉と保健衛生(各年3月末現在)

チェック | check

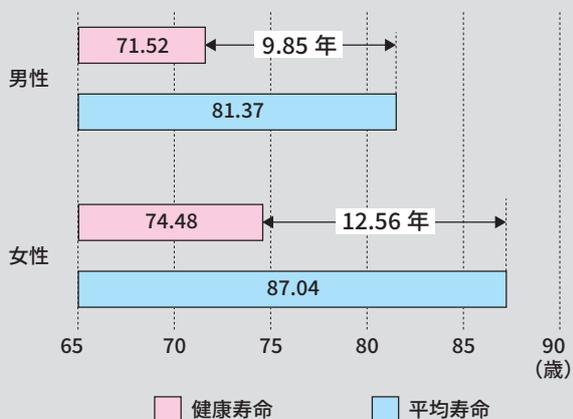
- ・磯子区の障害者手帳の所持者数は年々増える傾向にあります。
- ・身体障害者手帳はほぼ横ばいで推移していますが、知的障害者の「愛の手帳」(療育手帳)と精神保健福祉手帳の所持者数は年々増加しています。

地域活動ホームや作業所など障害がある人たちが活躍する場もたくさんあるよ。買い物や移動、災害で避難が必要な時は困ることもあるんじゃないかな。お祭りやイベントも一緒に楽しめて知り合いになれるといいね。



コラム | column

横浜市の平均寿命と健康寿命



(2016年)国民生活基礎調査を基礎データとして算出
出典：第2期健康横浜21中間評価結果より

健康寿命とは…

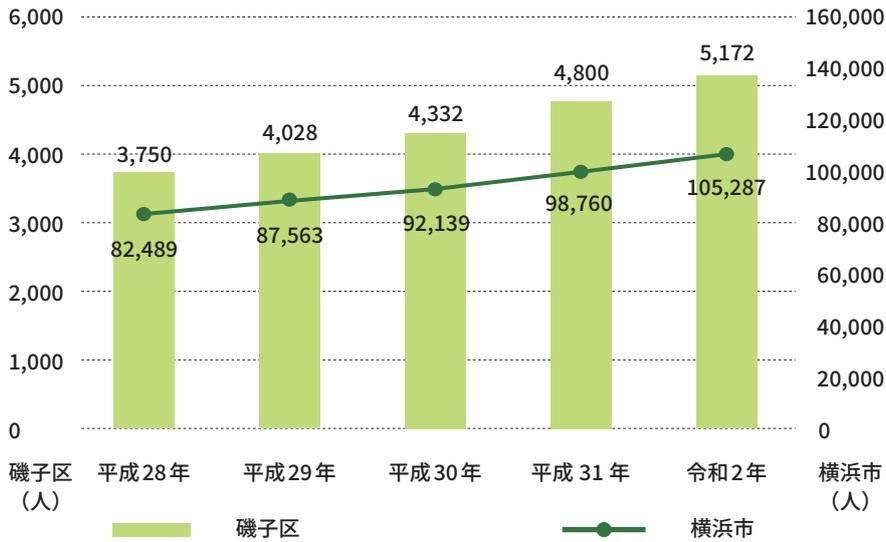
「健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間」のことを言います。

平均寿命と健康寿命の差の期間(要介護や寝たきり等)が長いことが課題になっています。

健康に気を付けながら
いきいきとした自立した生活を送るために、健康寿命を延ばしていきたいね！



■外国人居住者数の推移



出典：横浜市統計ポータルサイト（各年3月末現在）

ゴミの出し方や習慣の違いで困ることもあるだろうね。日本の習慣を教えたり、外国の文化を教えてもらったり、お互いに行けるといいね。

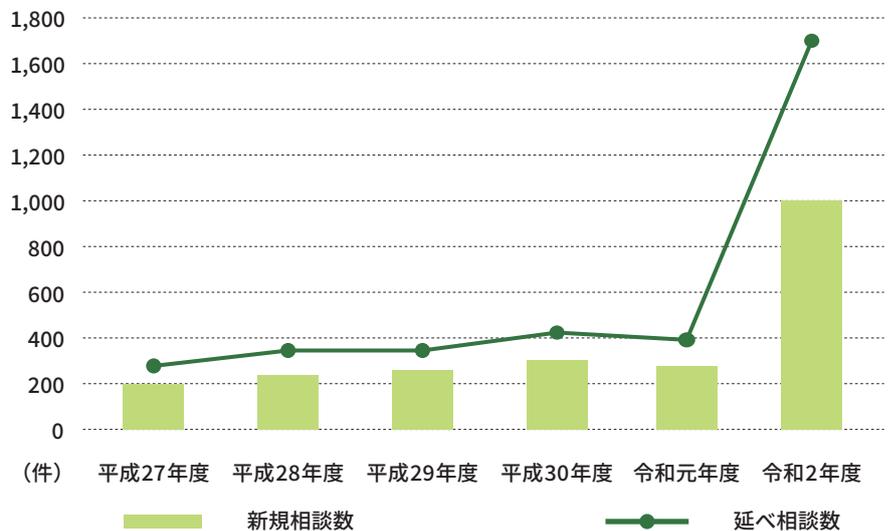


チェック | check

- ・外国人居住者数は、緩やかに増加傾向が続いています。
- ・令和2年は5,172人となっています。

■生活困窮相談件数の推移

新型コロナウイルスの影響で、生活に困窮してしまう人がとても増えたんだね。コラム(P.27)にもあるけれど、区役所には、経済的な困窮に限らず、生活の困り事や不安について、相談できる窓口があるよ。



出典：磯子区の福祉と保健衛生（各年3月末現在）、磯子区生活支援課

チェック | check

- ・生活困窮相談件数は、新規相談数及び延べ相談数ともに平成27年から令和元年までほぼ横ばいに推移していましたが、令和2年の延べ相談件数は激増しています。
- ・令和2年度に増加した要因は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により経済が不安定になったことによる影響が大きいと考えられます。離職や減収になった方からの相談が増えました。

3. 第3期計画から第4期計画へ

■第3期計画について

第3期計画では基本理念「誰もが幸せに暮らせるまちをめざして」のもと、3つの基本目標を掲げました。9つの地区が中心となって取り組む「地区別計画」と行政・関係機関が連携して進める「区役所・区社協・地域ケアプラザの取組」の2つの枠組みで計画を立てました。



■区役所・区社協・地域ケアプラザの振り返り

区役所は、区全体の課題を中心に取り組み、地域ケアプラザは、地域の身近な機関として地域に根差した取組を支え、区社協は様々な団体とネットワークを生かした事業を進めてきました。

地域の暮らしを支援

取組① 自分らしく暮らせるための支援をします

取組② 子育てしやすい地域をつくれます

取組③ 健康づくりを進めます

●第3期の振り返り

- ・認知症やひとり暮らし高齢者の見守り、障害者への理解促進や、要介護者支援、またエンディングノートの普及など、様々な取組を推進してきました。
- ・子育てに関する講座、親子の居場所づくりの充実、子育て支援連絡会の開催等、関係機関同士で連携し、身近な地域の中での取組を進めてきました。
- ・世代別の食に関する講座の開催、身近な場所での健康づくりの取組を支援してきました。

●第4期に向けて

- ・病気や障害がある方、生活に困難を抱えた方が安心して生活できるよう、権利擁護や生活困窮者支援に関する普及啓発や取組を進めていく必要があります。
- ・妊娠期から地域とつながっていけるよう、「地域全体で子育てを支える」ための取組が重要です。
- ・健康づくりの取組が身近な地域で充実するよう、今後も各地区の取組を支援していきます。

地域の活動を支援

取組① 地区別計画の推進体制を支援します

取組② 地域の活動が活発になるよう支援します

●第3期の振り返り

- ・補助金や助成金による地区別活動の推進、地域づくりのための講座の開催や活動者同士の交流会などを通して、地域の活動を支援しました。
- ・各分野で新たな担い手育成のための講座や、啓発のためのパネル展などを実施し、地域活動が活性化するよう取り組みました。

●第4期に向けて

- ・「スイッチON磯子事業補助金」の活動だけでなく、様々な地域活動が一体となって「スイッチON磯子」の推進につながるよう取り組んでいきます。
- ・地域の多様なニーズに対応するために、地域の方や企業、様々な団体が連携し、新たな活動につながるよう、支援の展開を図っていきます。

■ 地区別計画の振り返り

地区別計画は2つの共通テーマ(P.8参照)をもとに、それぞれの地区の特徴に基づいた計画を各地区で立てました。それにより、地域に根差した活動が進み、連合単位だけでなく、自治会町内会単位などの身近な場所での活動が増え、裾野が広がっていきました。

< 地域のみなさんの声 >

第4期計画の策定にあたり、地域で活動されているみなさんにインタビュー・アンケートを行い、第3期の振り返りと今後、地域がどうなってほしいかお話を伺いました。

第3期で取り組んできたこと、活動のなかで良かったこと嬉しかったこと

- ・高齢者の方の見守りを会長や役員だけでやるのではなく、**みんなでやる仕組みづくり**ができてきた。
- ・“**ご近助運動**”として、声掛けや挨拶など**顔見知り**になることから始め、まずは**近くの人を助ける**ようにしている。
- ・地域の方に**得意分野**の講師をお願いしたら前より**元気になった**。
- ・健康体操を習った人が、自分の自治会で中心となって体操を**広めている**。
- ・こども食堂で親同士が**知りあい**になり、**交流の場**になった。
- ・障害者施設が地域に受け入れられるか心配していたが、地域の人が温かく声をかけてくれて安心した。
- ・相手に喜んでもらえることが自分も嬉しい。

活動や取組のなかで感じている課題

- ・オートロックのマンション等見守りをしづらい所がある。
- ・若い世代は地域活動や自治会に興味がない人が多い。
- ・山坂が多く、サロンや買い物に行けない人がいる。
- ・**外国人**が増えコミュニケーションや文化の違いに戸惑う。
- ・**担い手が高齢化**し、新しい人材が入ってこない。
- ・支えあいには高齢者ばかりでなく、**子育て世代**の人も入れて欲しい。
- ・若い人が**ちょっと関わられるサポーター的な参加の仕方**や、役割が**重荷にならないやり方**などを模索していく必要がある。

5年後10年後、地域にどうなってほしいか

- ・地域には**つながりたくない**人もいるが、それも**認めて**いきたい。
- ・担い手をつくるということに重きを置くのではなく、**みんなで楽しく自分のこと**だけでなく、**地域のことも**考えていけるような地域になるといい。
- ・町内の**みなさんが「支えあい」を理解**してくれるまちになるといい。
- ・子どもにとって**地域の大人は、親でも先生でもない「第3の大人」**でありたい。
- ・第4期計画は初めて「人口減社会」に突入する計画。そのような社会を迎える準備となる計画になっているとよい。

■第3期計画振り返り結果と今後の方向性について

第3期計画は、各地区や区役所・区社協・地域ケアプラザそれぞれの取組が推進されました。一方で、同じ目標に沿って一体感をもって進めていくことが大切との意見が出されました。それらを踏まえ、第4期計画の方向性を次のとおり、まとめました。

第4期計画策定のうえで大事にしていく考え方

●理念について

「誰もが 幸せに暮らせるまちを みんなでめざす」

- ・第3期計画で掲げた**基本理念**は重要なテーマであることから**継承**していきます。
- ・地域で活躍するみなさんと様々な関係団体など、全ての人が関わっていけるよう「**みんなで**」という言葉を加えます。

●計画全体に対する考え方

- ・第4期計画では区全体で一体的に取り組んでいくため、**計画全体の共通の基本目標**を立てます。
- ・身近な地域の中で「**互いに支えあう**」ことは、地域福祉保健計画の根幹ともいえる考え方であり、第4期計画でも引き続き取り組みます。
- ・世代やそれぞれの心身の状況等に関わらず、全ての人を対象に**心と身体の健康**を考えていきます。
- ・地域が多様化する中で、いろいろな人や考え方を認めあうことができるよう、新たに「**多様性を認めあう**」という視点を加えていきます。
- ・磯子区に住む誰もがこの計画で支えられたり、支えたりする存在であることを表し、活動がこれからも続いていくよう、**多くの人や団体が力をあわせていく地域**を目指していきます。

<地域のみなさんから、いろいろな声があがりました！>

「ありがとう」の言葉や得意なことを生かせることでやりがいを感じ、それが健康にもつながっていると思う。

居場所づくりや見守りが進んでいる一方で、いろいろな考え方の人がいることや集合住宅での見守りなどに苦慮しているところもあるみたい。



地域が多様化するなかで、いろいろな考え方を認めあうことが求められているように感じる。活動の仕組みや関わり方も工夫する必要があるかもしれない。

新型コロナウイルス感染症による影響

この計画の策定を始めた令和2年初め、新型コロナウイルス感染症が発生し、私たちの生活全般、特に地域社会に大きな不安や脅威をもたらし、日常生活に様々な影響・変化を与えました。

感染の拡大防止のために、人と人が距離を取ることを求められ、地域の活動の多くが休止となるなど、変更を余儀なくされましたが、様々な工夫で継続・再開されてきたものもあります。

今後も予測のつかない出来事が起こるかもしれませんが、この計画で目指している「支えあい」や「自分らしさ」、「つながり」「広がり」等は変わることのない目標となっていくものです。

第4期計画はこれからの5年間の計画であり、少し先の未来を見据え、困難があっても目標に向かって話し合いや工夫を重ねていくための土台となしてほしいと願い、策定いたしました。

～活動を継続していく工夫・新しい試み～

● 新しい方法でつながってみた！

- ・友だちとZoomでおしゃべり
- ・LINE 電話を使って自治会の定例会ができた
- ・趣味の仲間と往復はがきで励ましあった

● 工夫して実施した！

- ・1回の人数を減らして予約制にした
- ・午前・午後等複数回で行った
- ・密着しないように席の間隔を空けてマイクを使った
- ・昼食会からお弁当の持ち帰りやお届けへ
- ・マスクを外さずにできるカリキュラムへ
(物づくりや音楽鑑賞等)

● 外に出てみよう！

- ・子どもの活動も室内遊びから公園遊びへ
- ・様々な年代の体操教室も室内から屋外会場へ
- ・グラウンドゴルフはコロナの影響を受けずに継続実施。

● 参加の裾野が広がった！

- ・公園のラジオ体操に参加する人(新しいメンバー)が増えた
- ・食べるものに困っている人を助けたいという思いから、個人や企業の協力も得た「食の配分会」が始まった



「こども食堂」

みんなで集まって食事をする形式から、テイクアウト型に変更しました



「おんぶの輪♪」

以前は大勢集まって歌っていましたが、回数を分け、間隔を空け、一方向に向かって、換気もしっかりして活動しています



密を避ける&内容の工夫



むしろ頻度も参加者も増加



「青空ぶらっと」

子育て支援の方たちに手伝ってもらい、いろんな公園で外遊びをしました

1. 基本理念と基本目標

スイッチON磯子では、基本理念と、そこに向かうための3つの基本目標を掲げています。
3つの基本目標は区全域計画、地区別計画共通の目標です。

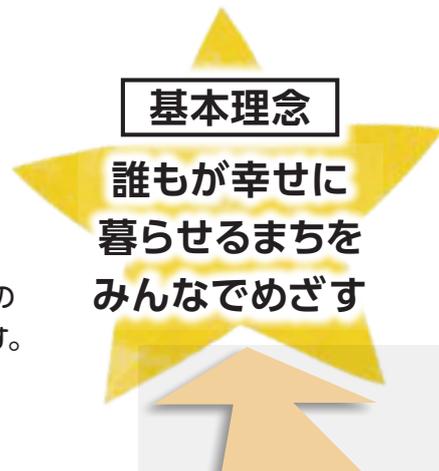
基本理念 誰もが 幸せに暮らせるまちを みんなでめざす

「スイッチON磯子」は磯子区に暮らす全ての人が生まれるときから人生を終えるまで、その人らしく安心して幸せに暮らしていくことを目指しています。

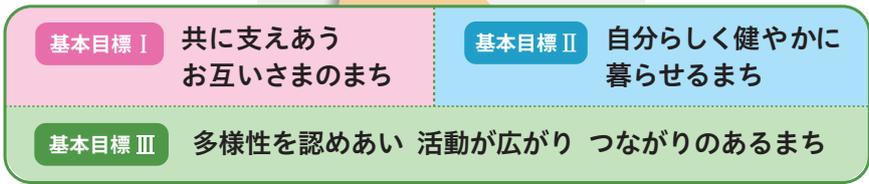
区全域計画と地区別計画に私たち一人ひとりや家族、地域、団体、施設、公的機関などが、それぞれできることに「みんなで」取り組み、区が一体となって、基本理念の実現を目指します。

「誰もが」には、年齢・性別・国籍・病気や障害の有無に関わらず、又、赤ちゃんから学童期、働く世代や子育て世代、リタイヤした世代から高齢者等のあらゆるライフサイクルが含まれるという意味が込められています。

 基本理念Ⅲが
基本目標Ⅰと基本目標Ⅱの
土台となって支えています。



基本理念と基本目標は、
計画全てに共通する
大事なことだね！



3つの基本目標

基本理念を実現するための具体的な目標として3つの基本目標を立てました。基本目標Ⅰ・Ⅱ・Ⅲは互いに関係しあっており、連動していることを意識しながら取組を進めることで、活動が充実していきます。

基本目標Ⅰ

共に支えあうお互いさまのまち

普段の生活のなかで、ちょっと困ったこと、一人では解決できないことがありますか？また、災害のことなど、誰もが不安に思うこともあるはず。そんなとき、身近に顔見知りがいれば、安心につながります。

そんなとき、身近に顔見知りがいれば、一人ではないと思えば安心につながります。地域の中にあたたかいまなざしやさりげない見守りがあり、「支える側」「支えられる側」の区別なく、誰もがお互いに支えあえるまちを目指します。

めざす姿

- ・みんなが地域とつながる機会がある
- ・普段から顔見知りの関係があり、いざという時に支えあえる
- ・ときに支え、ときには支えられるというお互いさまの関係性がある
- ・さりげない見守りの中で安心して過ごせる
- ・支えあいの仕組みがある
- ・安心して子育てできる地域をつくる

基本目標Ⅱ

自分らしく健やかに暮らせるまち

好きなことや得意なことで自分らしさを生かし、いきいきと暮らすためには、体はもちろん心も含めた健康が大切です。

地域の様々な活動に参加することで、社会参加や生きがいづくりにも発展するとともに、一人ひとりの健康づくりにもつながります。

誰もが心身ともに健やかで、地域の中で自分らしく暮らせるまちを目指します。

めざす姿

- ・身近なところに居場所や役割を担う場がある
- ・好きなことやできることを生かして、自分らしく暮らしている
- ・身近なところに健康づくりに取り組める場がある
- ・一人ひとり、心と体の健康が大切だという意識が高まっている

基本目標Ⅲ

多様性を認めあい 活動が広がり つながりのあるまち

地域には子どもから高齢者、働き世代や子育て世代、障害児者、外国にルーツのある人、昔から住む人、引っ越して来た人など、様々な人がいます。それぞれの立場や背景を理解しながら、誰もが自分らしく生活できることが幸せにつながる第一歩です。

一方で、地域には、担い手や参加者が限られていたり、必要な情報が届かないという課題もあります。全ての人に情報が届き、出会いのきっかけや地域につながる機会が増えるよう、多くの人や団体が協力・連携しあえるまちづくりを目指します。

めざす姿

- ・自分のことも周りの人のことも認めあえる
- ・必要とする人に情報や支援が届く
- ・地域の社会資源や活動の情報が共有されている
- ・参加の入り口がたくさんあり、幅広い住民が活動に参加している
- ・様々な人や団体が、それぞれの強みを生かして協力・連携し、つながりや活動が広がっている
- ・地域の中に人や団体をつなげる人がいる

2. 区全域計画

区全域計画とは、区全体の方針を示し、区民一人ひとりから、団体・関係機関が区全域で進めていく取組をまとめたものです。区役所・区社協・地域ケアプラザが中心となり課題解決に向けて進めていく取組や地区別計画の活動を支える取組、地区を超えて広域で活動する団体の取組などが位置付けられています。基本目標Ⅰ・Ⅱ・Ⅲは計画すべてに共通するものですが、区全域計画の項目で詳しく示します。

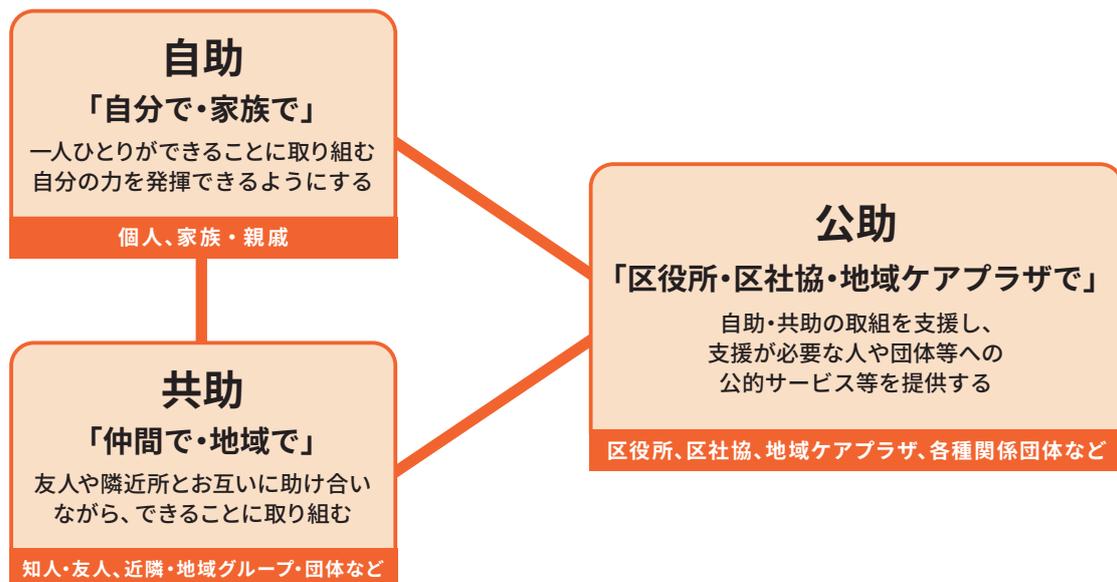
■区全域計画の特徴

ポイント① 基本目標Ⅰ・Ⅱ・Ⅲは、区全域計画と地区別計画共通の目標です。
目標をイメージしやすいよう、それぞれに「めざす姿」を示しました。

ポイント② この計画は、基本理念にもあるように「みんなで」進めていくものです。そこで、基本目標ごとに「自助」「共助」「公助」の3つの主体に分けて、具体的に取組む内容を整理しました。

※実際には明確に主体が切り分けられないものや、相互に関わりながら進められるものもありますが、ここではわかりやすいように分けて整理しています。

<スイッチON 磯子「自助」「共助」「公助」の考え方>



■各公的機関の役割

区役所 区全域の取組について、庁内各課の専門性を生かしながら総合的にサポートします。

区社協 地区社会福祉協議会(以下、地区社協)などの地区ごとの取組の推進はもちろん、様々なネットワークを生かし、各種団体や関係機関とともに区全域に関わる取組を進めます。

地域ケアプラザ 「地域の身近な福祉・保健の拠点」として、福祉活動のネットワークづくりや住民主体による支えあいのある地域づくりを支援します。

※ 公助については3者(区役所・区社協・地域ケアプラザ)を中心に記載していますが、計画の推進にあたっては、様々な関係機関や団体と一緒に連携しながら進めていきます。(P.57～P.60参照)

■区全域計画のページ構成

基本目標Ⅰ 共に支えあうお互いさまのまち

めざす姿

- みんなが地域とつながる機会がある
- 普段から顔見知りの関係があり、いざという時に支えあえる
- ときに支え、ときには支えられるというお互いさまの関係性がある
- さりげない見守りの中で安心して過ごせる
- 支えあいの仕組みがある
- 安心して子育てできる地域をつくる

自分で・家族で【自助】

- ・地域に知り合いを増やす（あひさつから！）
- ・自分が困ったときは、困っていることを誰かに伝えてみる。
- ・備蓄品を準備する等、災害時やいざというときに備える。

仲間で・地域で【共助】

お互いさまの気持ちで行動する

- ・困っている人がいたら、何かお困りですか？と声をかけてみる。
- ・自分でできる範囲の手助けをする。
- ・自分で解決できないことでも、相談機関や地域の人などにつなげて相談してみる。

人と人の出会いのきっかけをつくる

- ・地域で顔見知りになれるきっかけをつくる。
- ・顔見知りになり、ちょっとしたことを話せる関係をつくる。

2階に住んでいた子どもの足音が無初は「うるさいな」と思っていたが、顔見知りになってからは「今日は元気な走り回っているな」と思えるようになった！

支えあいや見守りの仕組みをつくる

- ・気になっていることを話し合える場をつくる。
- ・支えが必要なお手助けができる人とつなげる仕組みをつくる。
- ・支えあいや見守りの大切さを共有し、一緒に考えたり実行したりする仲間を増やす。

自動・共助の取組事例

大好きな高齢者ふれあいサロン
みんなと会いたくて・・・

町内会館で毎月開催しているふれあいサロン。毎回おしゃべりを楽しみに通って来ているAさんは、足を怪我して入浴してしまいました。みんなが心配していたところ、Aさんは退院後すぐにサロンにやってきました。どうしてもみんなに会いたくて、自宅から100mの距離をタクシーに乗って来たのです。Aさんはメンバー2人でAさんの両脇を担いで歩いてきました。Aさんが来てくれたことが他のメンバーにとっても、いいことでした。

「安全・安心家族カード」や防災訓練でひと工夫、災害時にも助けあえる関係の見える関係づくりをめざして

ある自治会では「安全・安心家族カード」を毎年集めて、世帯情報・避難者状況を把握しています。長年継続して実施しており、任意ですが殆どの世帯から提出して頂くことができ、ひとり暮らし・高齢者から提出して頂くことができています。

この方式では漏れることなく全員の安全確認が1時間程度でできています。その際に「防災宣言知識カード」を交換して話題とし、防災を学びながら自治会員同士の顔の見える関係の輪を楽しく広げる仕組みとしても役立っています。

ちょっとした困りごとを助けあいで解決

ある地域では、地域ケアプラザを拠点として高齢者等のために手作り弁当の配達を行っています。メンバーは毎月色々なお宅を訪問するうちに、おしゃべりやお出かけの付き添いをしてほしい、などちょっとした困りごとを抱えていることに気づきました。そこで、メンバーと地域ケアプラザで話し合いを、助け合いグループを立ち上げることにしました。お弁当配達のメンバーを中心に口コミで広がり、数を集まり、その後も段々と増えていきます。おしゃべりや1回500円の有料となりました。な依頼に対応するかの基本ルールはありますが、都度話し合いで決めています。助け合いのうちに色々見えてくるものもあり、草むしりに行ったお宅の人が最初はそっけなかったのですが、時間をかけて会話をしていくとその方の気持ちに触れることができるようになり、コミュニケーションの大切さも実感しました。

普段の子どもの関わりから学習支援へ

中学生向けの学習支援事業に携わっていたボランティアさんの中には、こども食堂でも子どもと関わる機会がある人もいました。そんな中で、学習のつまずきを少しでも少なくするには、もっと早い段階から支援をする必要があると気づき、既存の事業では漏れてしまいがちな小学校高学年の子どもが来られる学習支援事業をやりたい、という声が出ました。地域ケアプラザなどを巻き込みつつ、同じ思いを持つ人を集め、話し合いを重ねてボランティアによる学習支援グループが立ち上がりました。

目標が実現している状態を「めざす姿」としてまとめました。

わたしやあなた、家族でできることの例です。まずはここから考えてみましょう！

友人や隣近所、同じ思いを持った地域の仲間、団体、企業などで取り組むことの例です。みなさんが所属する地域や団体、仲間同士で話し合ってみてください。

区役所・区社協・地域ケアプラザで【公助】

地域ぐるみつながり・助けあいの仕組みづくり

区役所

- ・地域支えあい事業などを通して、地域で活動する方の支援や、支えあい活動の推進に取り組みます。
- ・分野ごとの関係者が集まり、地域の様々な情報や課題についての仕組みづくりにつなげていきます。

区社協

- ・ボランティアや地域活動に参加したい人、してほしい人をつなぐ。
- ・フードドライブや善意銀行などの活動を通して、金品の寄付を介した支えあいを進めます。
- ・地区担当者が地域に出向き、支えあい活動の推進に共に取り組むの相談を、地域と共に解決につなげる働きかけを行います。

地域ケアプラザ

- ・自治会町内会、地区社協や様々な団体と連携し、支えあいの仕組みづくりを行います。
- ・身近な地域での小さな困りごとなど、お互いに助けあえるようなボランティアグループの立ち上げをするなど仕組みをつくっていきます。

目標に合わせてカテゴリー分けをしました。

区役所、区社協、地域ケアプラザの3つの公的機関が、関係機関や地域のみなさんとともに取り組むことをまとめました。公的機関の役割には、上記の「自動・共助の取組事例」を下支えする役割もあります。

ぜひ、あなた自身や、あなたの属する地域や団体をイメージして、一緒に何ができるかを考えてみてね

ON!

取り組み内容・事業例

★配食ボランティアの支援

地域ケアプラザでは、調理室の貸出のほか、日々の活動を支援し、支えあいの取組を支援します。

【配食ボランティアの活動支援 (地域ケアプラザ)】

高齢者等にお弁当を届けているNPO法人や地域のボランティアグループ同士が情報交換や学習する機会を提供します。

【ふれあい型配食サービス連絡会 (区社協)】

- 具体的なイメージが付きやすいよう、取組や事業についても掲載しています。
- 区役所・区社協・地域ケアプラザについては、共通するものもありますが、それぞれの強みを生かした取組や事業を掲載しています。

1
2
3
4

第4期磯子区地域福祉保健計画「スイッチON磯子」

16

めざす姿

- みんなが地域とつながる機会がある
- 普段から顔見知りの関係があり、いざという時に支えあえる
- ときに支え、ときには支えられるというお互いさまの関係性がある
- さりげない見守りの中で安心して過ごせる
- 支えあいの仕組みがある
- 安心して子育てできる地域をつくる

自分で・家族で【自助】

- ・地域に知り合いを増やす。まずはあいさつから！
- ・自分が困ったときは、困っていることを誰かに伝えてみる。
- ・備蓄品を準備する等、災害時やいざというときに備える。



仲間で・地域で【共助】

お互いさまの気持ちで行動する

- ・困っている人がいたら、何かお困りですか？と声をかけてみる。
- ・自分でできる範囲の手助けをする。
- ・自分で解決できないことでも、相談機関や地域の人などにつなげて相談してみる。



人と人の出会いのきっかけをつくる

- ・地域で顔見知りになれるきっかけをつくる。
- ・顔見知りになり、ちょっとしたことを話せる関係をつくる。

2階に住んでいた子どもの足音が最初は「うるさいな」と思っていたが、顔見知りになってからは「今日も元気に走り回っているな」と思えるようになった！



支えあいや見守りの仕組みをつくる

- ・気になっていることを話し合える場をつくる。
- ・支えが必要な人と手助けができる人とをつなげる仕組みをつくる。
- ・支えあいや見守りの大切さを共有し、一緒に考えたり実行したりする仲間を増やす。



大好きな高齢者ふれあいサロンの みんなと会いたくて・・・

町内会館で毎月開催しているふれあいサロン。毎回おしゃべりを楽しみに通ってきているAさんは、足を怪我して入院してしまいました。みんなが心配していたところ、Aさんは退院後すぐにサロンにやってきました。どうしてもみんなに会いたくて、自宅から100mの距離をタクシーに乗って来たのです。

帰りはメンバー2人でAさんの両脇を抱えて歩いて帰ることができました。

Aさんが来てくれたことが他のメンバーにとっても、うれしいことでした。



ちょっとした困りごとを助けあいで解決

ある地域では、地域ケアプラザを拠点として高齢者等のために手作り弁当の配達を行っています。メンバーは毎月色々なお宅を訪問するうちに、草むしりやお出かけの付き添いをしてほしい、などのちょっとした困りごとを抱えていることに気づきました。

そこで、メンバーと地域ケアプラザで話し合いを続け、助け合いグループを立ち上げることになりました。お弁当配達のメンバーを中心に口コミで広がり、20数名が集まり、その後も段々と増えています。

頼みやすいように1回500円の有料としました。どんな依頼に対応するかの基本ルールはありますが、その都度話し合いで決めています。

活動しているうちに色々と見えてくるものもあります。草むしりに行ったお宅の人が最初はそっけなかったのですが、時間をかけて会話をしていくとその方の気持ちに触れることができるようになり、コミュニケーションの大切さも実感しました。

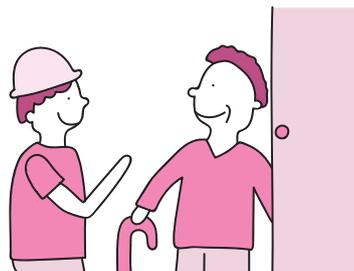


「安全・安心家族カード」や防災訓練で ひと工夫、災害時にも助けあえる 顔の見える関係づくりをめざして

ある自治会では「安全・安心家族カード」を毎年集めて、世帯情報・要援護者状況を把握しています。長年継続して習慣化しており、任意ですが殆どの世帯から提出して頂くことができ、ひとり暮らし・高齢者・要援護者情報なども把握できています。

しかし、それだけでは実際の災害時には足りません。そこで、全世帯参加型の防災訓練の時、あらかじめ相手を決めずに、その時に気になる5軒を訪問し安否確認をして報告する方式で実施しています。この方式では漏れることなく全員の安否確認が1時間程度でできています。

その際に「防災豆知識カード」を交換して話題とし、防災を学びながら自治会員同士の顔の見える関係の輪を楽しく広げる仕組みとしても役立っています。



普段の子どもとの関わりから学習支援へ

中学生向けの学習支援事業に携わっていたボランティアさんの中には、こども食堂でも子どもと関わる機会がある人もいました。そんな中で、学習のつまづきを少しでも少なくするには、もっと早い段階から支援をする必要があると気づき、既存の事業では漏れてしまいがちな小学校高学年の子どもが来られる学習支援事業をやりたい、という声が出ました。地域ケアプラザなどを巻き込みつつ、同じ思いを持つ人を集め、話し合いを重ねてボランティアによる学習支援グループが立ち上がりました。



区役所・区社協・地域ケアプラザで【公助】

地域ぐるみのつながり・助けあいの仕組みづくり

区役所

- ・地域支えあい事業などを通して、地域で活動する方の支援や、支えあい活動の推進に取り組みます。
- ・分野ごとの関係者が集まり、地域の様々な情報や課題について共有する会議等を開催し、支えあい活動の仕組みづくりにつなげていきます。

区社協

- ・ボランティアや地域活動に参加したい人、してほしい人をつなぎ、支えあいの輪を広げます。
- ・フードドライブや善意銀行などの活動を通して、金品の寄付を募り、必要な人に配分することで、寄付を介した支えあいを進めます。
- ・地区担当者が地域に出向き、支えあい活動の推進に共に取り組みます。また、区社協で受けた困りごとの相談を、地域と共に解決につなげる働きかけを行います。

地域ケアプラザ

- ・自治会町内会、地区社協や様々な団体と連携し、支えあいの取組を支援していきます。
- ・身近な地域での小さな困りごとなど、お互いに助けあえるようなボランティアグループを立ち上げるなど仕組みをつくっていきます。

取組内容・事業例

★配食ボランティアの支援



地域ケアプラザでは、調理室の貸出のほか、日々の活動を支援し、支えあいの取組を支援します。

【配食ボランティアの活動支援(地域ケアプラザ)】



高齢者等にお弁当を届けているNPO法人や地域のボランティアグループ同士が情報交換や学習する機会を提供します。

【ふれあい型配食サービス連絡会(区社協)】

地域の中の通える場所・つながる機会づくり

区役所

- ・身近な地域で通える場や参加できる場が持てるよう関係機関と連携し、立ち上げや運営を支援します。
- ・子どもが生まれる前から地域とつながることができるよう、両親教室や赤ちゃん訪問の機会を利用して地域の情報を伝える等、地域子育て支援拠点や保育園などと連携し、支援していきます。

区社協

- ・地域の様々な居場所の実践事例等の共有を通して、取組が広がるように支援します。
- ・こども食堂などの居場所の支援を通して、地域での見守りやボランティアの育成を進めます。

地域ケアプラザ

- ・親子の遊び場づくりや障害児者の居場所づくりなどを通して、身近な場所で様々な人や活動がつながる機会を整えていきます。
- ・高齢者の外出の機会となるよう、講座の実施や自主グループの立ち上げ支援などにより、多様な活動の場所をつくっていきます。

取組内容・事業例

★新しい活動の場づくり支援



【地域への補助金・空き家の活用の話し合い(区役所・区社協・地域ケアプラザ)】

区役所は地域の方が主体的に活動する場づくりにあたって、補助金により支援。活動の継続や運営にあたり、区社協や地域ケアプラザはノウハウを提供するなど、地域の人の居場所づくりを支援します。

見守り活動の支援

区役所

- ・地域の中で安心して過ごせるよう、認知症高齢者やひとり暮らし高齢者の見守り活動などを支援します。
- ・地域と共に子どもを見守る体制を整えていきます。
- ・生きづらさや生活に困り事を抱えている人が早期に相談につながるよう、見守り体制を整えていきます。
- ・学校と地域が連携した防犯活動、警察等と連携したツールづくり、情報提供などを進め、防犯意識を高める支援をします。

区社協

- ・地域の様々な見守りの実践事例等を共有し、取組の裾野を広げます。
- ・区社協で受けた困りごとの相談を地域につなげ、ともに考え、見守る地域づくりをします。

地域ケアプラザ

- ・民生委員や友愛活動員等と連携した見守り活動を通して、支援が必要な人の情報を共有し、福祉サービスや地域の見守りにつなげていきます。
- ・様々な人が使える、見守りに必要なツールを作成するなどし、地域の中でさりげない見守りの意識が醸成されるよう支援していきます。
- ・安心して生活できるよう、詐欺予防や安全な消費生活についての啓発を進めていきます。

取組内容・事業例

★見守りの工夫



地域で見守りのポイントについて話し合い、みなさんに配って見守りの目を増やします。

【見守りポイント(地域ケアプラザ)】



特殊詐欺被害を未然に防ぐため、通話内容を録音できる迷惑電話防止機器を、磯子警察署を通じて区内の高齢者を対象に貸し出しています。

【詐欺被害防止対策(区役所)】

防災・減災の取組の支援、地域の支えあい

区役所

- ・地域防災拠点の運営支援や災害時要援護者支援の取組を通し、地域の助けあい活動を推進します。
- ・自助の力を高めてもらえるよう、様々な方を対象に地域で防災講座を実施していきます。

区社協

- ・災害ボランティアについて、近隣区や横浜市社会福祉協議会と連携し、発災時の対応に備えます。
- ・区内での発災時の災害ボランティアセンターの立ち上げに向けて、ボランティアや関係機関とのネットワークづくりを行います。
- ・コミュニケーションボードなどのツールを活用し、障害者等との災害時の支えあいにつなげます。

地域ケアプラザ

- ・福祉避難所の運営など、支援が必要な人が安心して避難生活を送れるよう、いざという時の支援をします。
- ・地域防災拠点での訓練参加などを通して、顔の見える関係づくりを進めます。

取組内容・事業例

★発災時に備えた準備



災害時に障害者等が避難所で安心して過ごせるよう、円滑なコミュニケーションのためのツールとして普及（災害用の他にお店用と救急隊用があります）

【コミュニケーションボード(区社協)】



訓練の時に災害対策用トイレの組み立てをしました。いざという時の拠点の運営について日頃より地域の中で話し合いを重ねています。

【地域防災拠点の運営支援(区役所)】

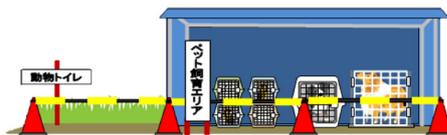
コラム | column

災害時にペットは？

災害がおきると、人と共にペットも被災します。地域防災拠点には飼い主がペットを連れて避難してくる「ペット同行避難」もあります。ペットを飼っている方も飼っていない方も、互いに思いやり、協力し合うことが大事です。災害時の支えあいに、ご理解・ご協力をお願いいたします。

区役所生活衛生課では、地域防災拠点でのペット同行避難受け入れ準備の支援を行っています。

- ・ペット同行避難を想定した拠点訓練
 - ・一時飼育場所・飼育ルール設定の支援
- など、お気軽にご相談ください。



【実際のペット同行避難訓練取組み事例のご紹介】



災害への備えについての説明



模擬一時飼育場所避難体験

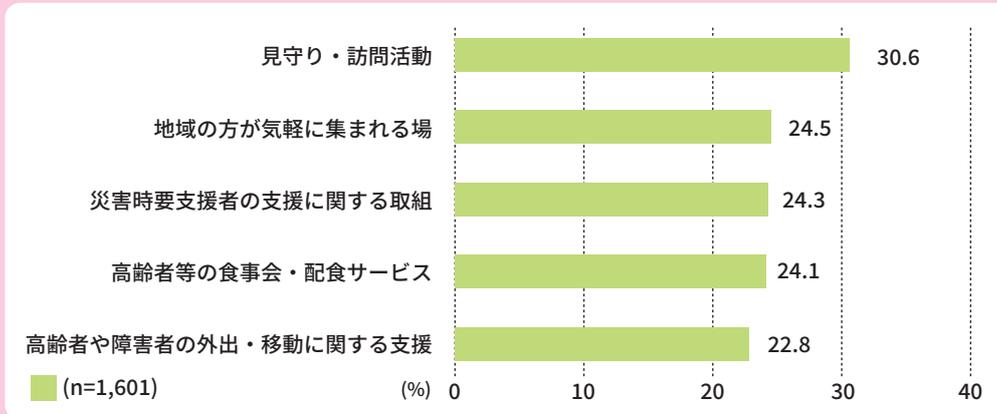


説明パネルや持ち出し品の展示

詳しくは…
「災害時のペット対策」
～ペットとの同行避難
対応ガイドライン～



● 地域で充実していくと良いと思う取り組み(上位5項目)

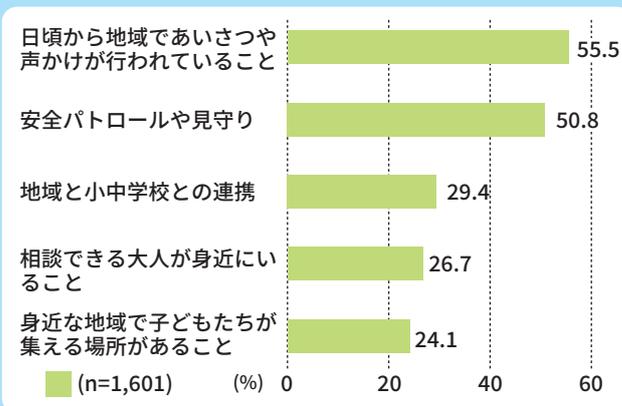


地域で充実していくと良いと思う取組は、「見守り・訪問活動」が最も多く、子どもや高齢者など幅広く見守りが求められています。地域の見守りのなかで、何かあれば声をかけたり、気にかけてあげることが日常の安心にもつながります。中には困りごとがあっても地域でのつながりがなくSOSが出せない人もいます。誰かが気付いた時に声をかけることが、支えあいや助けあいのきっかけになることもあります。まずは声をかけあえる関係をつくることから始めていきましょう。

障害があったり、生活に困りごとを抱えている人がいたら、一緒に考えたり、専門的な相談につなげることで解決につながっていくこともあるね。



● 子どもたちが安心して生活していくために充実していくと良いもの



子どもたちが安心して生活していくための取組については、「日頃からの地域のあいさつや声かけ」と「安全パトロールや見守り」が50%を超えており、地域全体で子どもたちを見守っていく取組が重要と考えられています。

あいさつや声かけて子どもたちにとっての安心材料なんだね。



めざす姿

- 身近なところに居場所や役割を担う場がある
- 好きなことやできることを生かして、自分らしく暮らしている
- 身近なところに健康づくりに取り組める場がある
- 一人ひとり、心と体の健康が大切だという意識が高まっている

自分で・家族で【自助】

- ・自分の好きなこと・興味のあることを周りに伝える。
- ・地域の中で、自分らしくいられる場所や活動を探す。
- ・定期的に健康診断を受ける。
- ・バランスの良い食事、十分な休養、定期的な運動に取り組む。
- ・身近な健康づくりの場に参加してみる。



仲間で・地域で【共助】

一人ひとりにあった多様な居場所をつくる

- ・同じ内容の居場所だけでなく、一人ひとりに合った多様な居場所をつくる。



一人ひとりが「ここにいていいんだ」と思える活動づくりをする

- ・相手の長所を見つけて伝えたり、感謝を言い合ったりする。
- ・誰もが参加しやすい雰囲気をつくる。



気軽に参加できる健康づくりの場をつくる

心身の健康の大切さを多くの人に知ってもらえるように情報の発信をする



自助・共助の取組事例

同じ立場だからこそ 本音が言い合える居場所

子どもの発達が気になる保護者が集まり、悩みや不安などを安心して話せる場を作っています。なかなか周りの人には相談しづらく、共有できない思いを、同じ立場の人だからこそ、分かり合え、集まり話すことで元気になる保護者がたくさんいます。



その人らしくいられる場づくり

高齢者が参加している介護予防の活動の中には講師として地域の高齢者が教えてくれている活動があります。自分の得意なことを生かし担い手として参加しています。高齢になっても誰かのために役に立つことができる喜びを感じることができ、参加している高齢者も新しい仲間を広場に誘い合うことができます。



毎日のラジオ体操

各地区で行われているラジオ体操。コロナ禍でも影響を受けることなく続けることのできた活動です。体を動かすことで健康づくりにつながることはもちろん、子どもから高齢者までが毎朝集まることでお互いの顔の見える関係づくりにもつながっています。

役割をもつことによって元気に

地区社協で地域の方々向けに講座を開催。内容は「我が地区の歴史」となり、その地区の歴史を語れる高齢の男性に講師をお願いすることにしました。最初は自信がなく不安に感じていましたが、講座は参加者からたくさん質問があがるほど盛況でした。講師として、地域行事に参加し、「ありがとう」と言われたことがやりがいにつながり生き生きとされていました。



障害者とのつながり

同じ町内にある障害者施設の利用者が町内会館で、ハンドベルの練習をしていました。

そこにボランティア活動をしていた高齢者が一緒に練習に参加することで、交流を図るようになりました。つながりは広がり、障害者施設の利用者がボランティア活動として、高齢者施設等での演奏を披露しています。



コラム | column

「自分のしたいこと」が「誰かのありがとう」に

社会参加というと難しく考えがちですが、「自分のしたいこと」をまずは始めてみませんか。趣味や特技、自分の経験を生かして、誰かと一緒に行くことで人とのつながりができます。また、それを知りたいと思う人がいたら、伝えていくことで人とのつながりが広がります。頑張りすぎずに、できることを生かして、身近な場所での活動に参加してみませんか。あなたの力を必要としている活動がきっとあります。

1

2

3

4

第4期磯子区地域福祉保健計画「スイッチON磯子」

区役所・区社協・地域ケアプラザで【公助】

身近な場所で活動できる機会の提供

区役所

- ・区民活動支援センターの運営などを通して、地域の様々な人が自分のできることや経験や知識を生かして活躍できるよう、機会の提供や支援をします。

区社協

- ・ボランティアセンターなどで自分の得意なこと、できることを生かせるような活動先のコーディネートやボランティア講座の開催をします。
- ・地域の中に、それぞれができることを生かせる活動先を増やします。

地域ケアプラザ

- ・自分のしたいことやできること、経験や知識を生かして活動できるような場を紹介したり、ボランティア講座を開催するなど、地域の中での活動に生かせるよう支援します。

取組内容・事業例

★活動の紹介の窓口



住民からの困りごとのニーズに対し、一人ひとりに合った活動を紹介できるよう、丁寧にコーディネートします。

【ボランティアセンター(区社協)】



新しく活動を始めたい方、経験や特技などを地域のために生かしたい方を支援します。

【区民活動支援センター(区役所)】

自分らしくいられる場の支援

区役所

- ・子どもの学びの場や障害のある方のための生活教室などを実施し、様々な人がその人らしくいられる機会や場づくりを支援します。
- ・「イソカツ」や「南部ユースプラザ」などと連携した青少年の居場所づくりを支援します。

区社協

- ・障害当事者部会などを通して、地域とのつながりづくりに取り組みます。

地域ケアプラザ

- ・認知症カフェの支援や介護者のつどいを開催するなど、身近な地域でその人らしくいられる場づくりを支援します。

取組内容・事業例

★同じ悩みを抱えた人が集える場づくり



青少年の地域活動拠点として活動する場を運営しています。

【イソカツ(区役所)】



認知症の人や家族、地域住民等が、気軽に集える場を支援しています。

【認知症カフェ(地域ケアプラザ)】

誰もが安心して生活するための支援

区役所

- ・病気や障害のある方、生活に困難を抱えた方の様々な相談を受け、制度につなげるなどの支援をします。
- ・誰もがその人らしく生活できるよう、区社協・地域ケアプラザ等と連携して「エンディングノート」「もしも手帳」などの広報活動に取り組みます。
- ・認知症の方が地域で安心して生活できるよう、認知症高齢者等あんしんネットワークなどのシステムを普及していきます。
- ・権利擁護の推進、成年後見制度の利用を促進します。

区社協

- ・困りごとの相談を受け止め、区社協のネットワークを生かし、専門的な機関とのケース検討などに参加し、個別支援と地域をつなぐ仕組みづくりをします。
- ・生活に困難を抱えた方の相談、権利擁護事業、生活福祉資金の貸付、食支援、必要な情報提供、他機関との連携等により自立を支援します。

地域ケアプラザ

- ・身近な地域の窓口として、様々な相談を受け、各種関係機関と連携し支援します。
- ・認知症の方やその家族が早期に相談や支援につながるよう、区や関係機関等と連携します。
- ・その人らしい選択ができるよう、必要な情報の提供を行い、自己決定の権利を守る支援をします。
- ・「セカンドライフ講座」等の開催や「エンディングノート（下記コラム参照）」、「もしも手帳」などのツールの普及啓発を行い、幅広い世代に向けて考えるきっかけづくりをします。

コラム | column

エンディングノートとは

エンディングノートは、今までの自分を振り返り、これからの人生を豊かに過ごすための助けとなるものです。「今までの自分」「今の自分」「これからのこと」を考え記すことで、**より自分らしくこれからの人生を前向きに過ごすきっかけ**になります。

また、大切な人たちに向けて意志を伝えるツールにもなります。「延命治療」や「お墓・葬儀」の話など、普段なかなか話す機会が無いことも、ノートを作成することで大事な情報を共有することができます。

エンディングノートというと、高齢者が書くものというイメージが強いと思いますが、病気、怪我や事故など、万が一の事態を考え、若い世代の方でも書いておくことをおすすめします。



磯子版エンディングノート

「自分らしく」を考えるきっかけになるといいな。
いざという時の備えにもなるね。



健康づくり・介護予防

区役所

- ・全ての世代が心と体の健康を意識し、健康づくりに継続して取り組めるよう、講座の実施や広報などにより啓発を進めます。
- ・健診(検診)の受診を推進し、病気の早期発見や生活習慣を見直すきっかけづくりをします。
- ・元気づくりステーションなど身近な地域で介護予防の取組が充実するよう支援します。
- ・保健活動推進員や食生活等改善推進員など、地域で健康づくりに取り組む方の活動を支援します。

区社協

- ・地域の様々な健康づくりの実践事例の共有を通し、取組が広がるよう支援します。
- ・施設や企業の機能を地域に紹介し、健康づくりや介護予防などの活動を支援します。

地域ケアプラザ

- ・あらゆる世代の方々が身近な場所で健康づくりの取組ができるよう支援します。
- ・介護予防講座や認知症予防、体操教室など、身近な場所で介護予防に取り組む機会をつくっていきます。

取組内容・事業例

★健康づくりの支援



【両親教室(区役所)】

両親教室では、子どもが健やかに育つための情報提供はもちろん、妊娠期から地域とつながれる場としての役割もあります。



【元気づくりステーション(区役所・地域ケアプラザ)】

身近な場所で、仲間と一緒に介護予防に取り組むグループ活動を支援します。

コラム | column

ご存じですか?生活困窮者自立支援制度

生活について…
不安や悩みありませんか?

仕事のこと 住居のこと お金のこと

ひとりで悩まずご相談ください

生活困窮者自立支援事業・相談窓口
045-750-2408
月～金 8:45～12:00 13:00～17:00
(祝日・年末年始を除く)
●無料の相談窓口です
●ご相談は秘密は厳守いたします

まずはお気軽にお電話ください
磯子区生活支援課

区内の公共施設や協力店舗などで配布中

生活困窮者自立支援制度の対象者は「現在困窮している方」＋「将来的に困窮するおそれのある方」です。つまり、「生活の困り事や不安」を抱えている方全員が、この制度の対象となります。

そして、「困窮」とは、経済的な困窮だけを意味しているわけではありません。様々な事情により地域社会とつながれず、「相談できる人がいない」という状態の方も含まれます。

困窮してしまう方のきっかけは様々です。失業や健康問題、介護・育児の困難等々……誰もが、ちょっとしたきっかけで、生活のバランスを崩して困窮となる可能性があります。

区役所生活支援課では、丁寧にお話を伺いながら、「仕事探しのお手伝い」「家計の見直しのお手伝い」を2本柱に、専門の相談員が寄り添った支援を行っています。

もしも、あなたの家族や友人で、生活の困り事を抱えている方がいたら、区役所の相談窓口(生活支援課)をご紹介ください。相談を迷われている方の背中をそっと押せるのは、あなたかもしれません。

認知症があっても安心して生活できる地域に…

認知症は、「早期発見」「早期対応」が大切です。認知症は、単なる老化ではなく、さまざまな原因によって誰もがなり得る身近な脳の病気です。磯子区の高齢者人口から推計される認知症高齢者数は、令和2年で7,400人程度とされています。

出典：2015年厚生労働省科学研究事業 65歳以上有病率16%

こんな症状はありませんか？

- 同じことを何度も言う
- しまい忘れ、置忘れが増えた
- 料理・片付け・計算・運転などのミスが多くなった
- 約束の日時や場所を間違えるようになった
- 周りへの気遣いがなくなり頑固になった

認知症の症状には、対応の仕方によってよくなる症状もあります。認知症について正しい知識や認知症の人にどのように接したらよいかを学ぶ機会として「認知症サポーター養成講座」があり、学校や地域ケアプラザなどさまざまな場所で開催されています。認知症サポーターとなり、認知症の人や家族をあたたかい目で見守る「パートナー」になりましょう。

認知症の人との接し方のポイント

驚かせない
急がせない
自尊心を傷つけない
否定しない

話しかける時は…

- まずは、さりげなく様子を見守りましょう
- できるだけ1人で声をかけましょう
- 相手の視野に入ってから、声をかけましょう
- 視線を合わせて、穏やかな口調で話しましょう
- 急かさず、相手の言葉に耳を傾けましょう

のぞいてみませんか？「こすもすショップ」

障害のある人たちが通う複数の施設が、自主製品（パン・お弁当・焼き菓子・手工芸品など）の展示販売を磯子区役所1階区民ホールで開催しています。こすもすショップは区内障害者施設に通う皆さんが、販売を通じて地域の皆さんと交流し、相互理解を深めていく場になっています。利用していただくことで、障害のある人の自立を応援することにもなりますので、ぜひ足を運んでみてください。

開催日時は毎月第3水曜・木曜の10:00～15:00です。



いそごでさがそ〔カフェ・パン・スイーツ・雑貨のガイド〕

区内の障害者施設の自主製品紹介ガイドブック「いそごでさがそ」では、施設で作っている製品をたくさんの写真と共に紹介しています。

【配布場所】

区役所1階広報相談係、5階高齢・障害支援課、区内地域ケアプラザ及び地区センターなど



めざす姿

- 自分のことも周りの人のことも認めあえる
- 必要とする人に情報や支援が届く
- 地域の社会資源や活動の情報が共有されている
- 参加の入り口がたくさんあり、幅広い住民が活動に参加している
- 様々な人や団体が、それぞれの強みを生かして協力・連携し、つながりや活動が広がっている
- 地域の中に人や団体をつなげる人がいる

自分で・家族で【自助】

- ・自分に必要な情報を口コミや掲示板などの色々な方法で探してみる。
- ・地域の行事などに参加してみる。
- ・自分を知ってもらうことから関係づくりを始める。
- ・地域の活動等で、小さな役割に挑戦してみる。



仲間で・地域で【共助】

多様性について地域で考え、認めあえる地域をつくる

- ・まずは相手を知ることから始める。
- ・様々な人同士が、お互いを知り交流できる機会をつくる。

必要な情報が必要な人に届くように工夫する

- ・情報を受け取る人の状況を考え、その人に合わせた様々な発信を行う。
- ・地域の社会資源や活動の情報を集め、共有するとよい情報を見つけ、発信する。

活動の仲間を増やす

- ・参加の入口を広げる。

人や団体が協力し合い、コラボレーションしながら地域を盛り上げる

- ・様々な人や団体との交流の場をつくり、互いの強み弱みなどを共有する。できることでコラボレーションする。
- ・活動の範囲をほんの少し広げる。
- ・人と人、団体と団体をつなぐ役割をつくる。

今ある活動を大切に、守る

- ・続けていくことが大変な場合は、活動内容を見直すとともに、守るべき部分をきちんと話し合う。
- ・同じような活動をしている他の団体と協力したり、新しい仲間が増えるような工夫をする。

障害がある子どもを地域で育てる

家族に障害のある中学生の息子がおり、その子が一人で家にいる時に発災した時のことを考え、町内会で行っていた災害時要援護者カードを提出しました。すぐに町内会長さんが家を訪ねて来てくれ、話をしました。「何かあったらドアを破っても助けに来るよ」と言われ、地域の方が息子を気にかけてくれることが嬉しく、周りのみなさんが気にかけてくれることで、自分(親)がいなくなっても息子は地域で安心して暮らしていけるのではないかと思います。



外国人も安心して暮らせるまちに

外国につながるのある小学生・中学生の学習支援を実施。学習支援はもちろんですが、子ども達は集まっておしゃべりできることも楽しみにしている様子です。地域住民である学習支援のボランティアとつながることもでき、大切な場の一つとなっています。



メールを活用して会議を短縮化

これまでは定例の会議に委員が集まり、長時間の会議が行われていましたが、コロナ感染予防対策として、メールを活用して情報共有や意見交換をするようになりました。場に集まって会議ができるようになってからも、事前にメールで意見集約等を行い、会議の時間の短縮につながっています。



活動の広がりとお世代交流の場づくり

子ども連れで集まり、お茶を飲みながら話ができる場所が欲しいというママの声から子育てサロンが生まれました。介護予防・多世代交流の機会の場ともなるように地域の高齢者の方が担い手のボランティアとして関わっています。ママ同士の交流・つながりづくりはもちろん、地域の高齢者のボランティアに子育てのちょっとした相談ができる場もなっています。



コラム | column

「多様性」ってなに？

第4期スイッチON 磯子を検討する分科会では「多様性ってどう表現すればいいの?」ということが議論になりました。いったん「年齢や性別、国籍や出身に関わらず」という説明にしてみたところ、「そのような種別で説明することが違和感」「あいさつ一つとっても勇気がある人もそうでない人もいて、それが多様性」「どこが違うかではなく、自分以外の人を理解しようとする姿勢が大切」などの色々な意見が出ました。

説明がないと多様性のイメージがわかりませんが、説明しすぎるとレッテルを貼って決めつけてしまうことになってしまうというジレンマです。文字だけではこのニュアンスをうまく表現できないのですが、とても大切な議論だったと思います。

つまり、磯子区に暮らす全ての人を対象であり、お互いに認めあっていきましょうということなのです。みなさんもぜひそれぞれの団体で「多様性」について話し合ってみてください。



自助・共助の取組事例

オンラインを利用した 若者と高齢者のつながりづくり

コミュニケーションツールとしてオンラインが活用されるにつれて、学生や若いママさんたちに企画をしてもらい、高齢者向けのスマホ講座をやってもらいました。一回では分からない参加者に対して、「何度でも聞いていいですよ」と優しく声をかけながら教えている様子が見られ、つながりづくりにもなりました。

企業の持っている強みを地域に生かす

計画の策定にあたり行ったグループインタビューで「買い物にお困りの方」についてご意見を頂いたことをきっかけに、地域にアンケート調査を行い、移動販売を希望する自治会の会長、関係機関とで検討を開始しました。その後、検討の場を地区社協に移し、住民主体の組織として正式に発足しました。

関係機関、協力企業を交えて検討を進め、区内5か所にて移動販売を開始し、移動販売の安定継続と買い物にお困りの方への支援について定期的に話し合いを行っています。



食料の寄付が 生活に困っている人を支える

個人による食べきれない食べ物の寄付や、企業の自社製品による寄付などを通じて、子ども食堂での活用や、生活に困っている人にお渡しする取組が広がっています。

新型コロナウイルスの影響で職を失うなどの生活が困窮している状況が明るみになり、ますます食支援の必要性が高まりました。そこで、企業に地域の窮状を伝えたとこ、個別の家庭にお渡しできるような食料の寄付をいただくことができました。個人の寄付についてもSNSを活用し募ることで、普段より多くの寄付が集まりました。

地域で配分会を開催し、集まった寄付をお渡しする活動も広がっています。広報についてもSNSを活用することで、これまで関わりの少なかった若いひとり親家庭なども支援につながるようになりました。

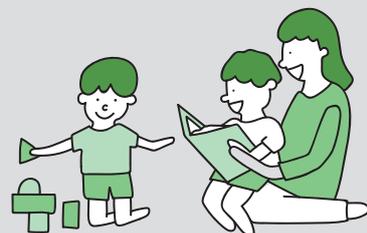


コラム | column

地域で安心・楽しく子育て（子育て支援連絡会）

核家族や少子高齢化が進むことにより、周囲に育児をサポートしてくれる人がいないという声が聞かれます。磯子区では、子育て中のパパやママが安心して楽しく子育てができるために区、子育て支援拠点（いそピヨ）、地域ケアプラザ、主任児童委員、幼稚園、保育園、その他多くの団体が地域で様々な子育てを応援する活動をしています。そして、子育て支援の現状や課題などを共有し活動の連携を目指すために、関係機関が集まり「子育て支援連絡会」を実施しています。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止が求められる状況下でも、区内の子育て支援に関わる機関は、様々な工夫をしできることを模索しながら、地域とつながりや交流のある活動をしています。今後も子育てに関する情報を共有し、各活動に生かせる連絡会を開催していきます。



区役所・区社協・地域ケアプラザで【公助】

共通

..... 区役所、区社協、地域ケアプラザが
共通で取り組むこと。

多様性を認めあう風土づくり

区役所

- ・多様性を認めあうための広報、キャンペーン活動などの普及啓発活動、研修、講演会などを通して、相互理解を進めます。
- ・区内障害者施設の自主製品の紹介(コラムP.28)などにより、障害のある方の様々な活動を区民へ周知していきます。
- ・地域子育て支援拠点と連携し、外国にルーツのある方の子育ての支援など、地域とつながりがもてるよう支援していきます。

区社協

- ・講演会や広報紙などを通して、多様な立場の人への理解が深まる啓発を行います。
- ・学校や企業、地域に向けて普及啓発のための講座や福祉教育を行います。

共通

- ・世代の違いや障害の有無等に関わらず、多様な人たちが交流できるきっかけづくりを支援します。
- ・学校や企業、自治会町内会等の地域に向けて、普及啓発のための講座や福祉教育を行います。

取組内容・事業例

★理解啓発の取組



スーパーの接客職員に対し、認知症サポーター養成講座を行いました。



学校の依頼に基づき様々な種類の福祉教育を行っています。

【福祉教育(区社協・地域ケアプラザ)】

様々な方法でのコミュニケーションの推進

区役所

- ・新たな方法でつながっていけるよう、インターネット等の活用ができる環境づくりを支援します。
- ・地域関係団体や委嘱委員(民生委員・児童委員、主任児童委員、保健活動推進員、スポーツ推進委員、青少年指導員、環境事業推進委員、消費生活推進員)等を通じた周知や窓口相談等の機会をとらえて、必要な人に情報を届けます。

区社協

- ・地域ケアプラザ等と連携し、地域に出向いて制度等の情報を届けます。
- ・コミュニケーションボード等のツールの普及を進め、障害等に関わらず理解しあえる関係づくりを支援します。
- ・地域の方が、スマホやオンライン会議システム等に取り組みやすくするため、ノウハウを持つ企業やボランティアと地域ケアプラザ等をつなぎ、講座の実施や調整を行います。
- ・当事者や施設の分野ごとのネットワークを生かし、様々な団体に情報が届くよう工夫します。

地域ケアプラザ

- ・自治会町内会等に出向き、地域に身近な情報の提供や普及啓発を行います。
- ・地域向けの講座などを通して、年代等に関わらずインターネットが使える人を増やす支援を行います。

1

2

3

4

第4期磯子区地域福祉保健計画「スイッチON磯子」

- ・多様な人に届くように、広報紙等の紙媒体によるわかりやすい情報提供、特に子育て支援情報についてはホームページやSNSを活用したタイムリーな方法で地域に向けた情報発信を行います。
- ・多言語に対応した情報発信やコミュニケーションツールの導入などを行います。
- ・オンラインシステム等を活用し、様々なコミュニケーションを推進していきます。

取組内容・事業例

★コミュニケーションの取り方の工夫



新たにオンラインツールを使つての会議に挑戦。

【区社協】



企業と連携し、空き家を活用してできた地域の活動拠点。スマホ講座を開催しました。

【区社協・地域ケアプラザ】

活動団体の応援

- ・活動団体への情報提供や団体運営に役立つ講習会やスキルアップのための研修などを実施し、運営を支援します。
- ・委嘱委員がそれぞれの役割を発揮できるよう、活動団体への情報提供や研修などを実施します。
- ・補助金や様々な助成金の交付などにより、地域の活動団体を支援します。
- ・子育て支援連絡会を開催する等、各種団体が協力しながら子育てしやすい地域になるよう支援します。

- ・活動団体への資金面での助成による、活動のサポートを行います。助成金申請団体など様々なところから得た活動団体の情報を各機関と共有します。
- ・区域で活動団体のテーマごとの研修や団体同士の情報交換等を行うことで、地域での活動が活発になるように支援します。

- ・自治会町内会やご近所同士等の身近な地域活動を支援します。
- ・身近な地域の中で、研修の機会、ボランティア団体同士の交流、活動の場の提供や情報交換の場をつくることで、活動の支援を行います。

取組内容・事業例

★様々な方面での活動の支援



地域の中で活動しているボランティアが集まり、話し合いができる場を設けています。

【ボランティア交流会(地域ケアプラザ)】



みなさまからの寄付金をふれあい助成金として毎年約90団体に配分しています。

【ふれあい助成金(区社協)】

新たな活動につながるネットワークをつくる

区役所

- ・地域の住民や各種団体、企業の関係者など様々な人々が連携し、区社協、地域ケアプラザと共に、高齢者の社会参加や生活支援の仕組みをつくっていきます。
- ・地域課題に応じ企業と活動団体をつなげるなど、課題の共有や新たな活動が創出できるよう支援します。

区社協

- ・子ども食堂連絡会と企業との連携等、区域や市域のネットワークを生かし、広域で活動する企業等と地域活動が結びつくような調整を行います。

共通

- ・異なる活動をしている団体同士や場所や物、情報など地域資源と団体をつなげることで、活動を支援します。
- ・活動や買い物等の生活支援に関わる企業や商店とともに、地域の暮らしを支える仕組みづくりを行います。

取組内容・事業例

★企業と地域をつなぐ



区内にできたスーパーが、交通機関の不便な場所にお買い物バスを運行。買い物だけでなく、様々な用途に無料で使えます。

【地元企業との連携(区役所・地域ケアプラザ)】



買い物の不便な場所に地域のコンビニが出張販売を実施。交通整理や声をかけあう等地域の支えあいの仕組みづくりにもなっています。

【買い物支援(区役所・区社協・地域ケアプラザ)】

地域での仲間づくり支援

区役所

- ・地域活動のノウハウを学ぶ地域づくり塾や新たに活動を始めるための地域デビュー講座などを実施し、様々な活動につなげていきます。
- ・両親教室や赤ちゃん教室など様々な事業を通して、仲間づくりにつながるよう支援していきます。

区社協

- ・企業や働く世代など、地域とのつながりが持たにくい人を地域活動につなげます。

地域ケアプラザ

- ・ちょっとしたお手伝いやイベントの補助など、参加しやすい活動を紹介し、できることを生かし社会参加の場を提供します。

共通

- ・趣味活動、やりたいことや得意なことを通して仲間づくりの機会をつくります。
- ・地域での活動を希望する方の相談を受け、情報提供や活動先の紹介を行います。

取組内容・事業例

★地域の課題解決や魅力づくりの手法を学ぶ講座



経験や特技などを生かし、居場所づくりなど地域での様々な活動を行うための手法を学ぶ講座です。区内のNPO法人と連携して開催しています。

【地域づくり塾(区役所・区社協・地域ケアプラザ)】



地域ケアプラザではいそご地域づくり塾の卒業生の活躍の場を支援しています。

1

2

3

4

第4期磯子区地域福祉保健計画「スイッチON磯子」

基本目標Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ共通の取組事例

今ある取組、感じている思いや課題に注目して工夫することで、いろいろな人にとってプラスになります。基本目標Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを踏まえた地域のなかで考えられる具体的な取組例を紹介します。

エピソード① 防災訓練にて

1 防災訓練の準備のための話し合いで…

障害のある人が訓練に参加できていないんだって。どうにかできないかな？

そんなのできるの？

よく知らないし、難しそう

2 障害のあるご本人やご家族に聞いてみました

訓練に参加してもらうには、何に気を付けたらいいですか？

うちの子はイラストや図があると分かりやすいの

3 訓練当日、表示を工夫してみました

わかりやすいね

トイレ！

日本語苦手でもわかるわ

4 訓練での出会いをきっかけに、地域のつながりが広がりました

道で会ったらあいさつしあえる

いっしょにおそうじ

勇気を出して参加してみよかったです！

障害のことをきっかけに、多様な人が参加できる防災訓練が実現したんだ。そして、日常の関係にも広がっていったよ。



エピソード② 体操教室にて

1 高齢者の体操教室

ずっと講師をしているA先生。みんな楽しみにしているのですが…

今日も日にちをまちがえていておむかえに行ったのよ

A先生、最近だいじょうぶかしら？

2 A先生と話してみました

先生、何か困ってる？

最近曜日をまちがえたりして、迷惑かけているし教室の先生は続けられないと思うの…

A先生悩んでいたのね

体操を教えるのは、とっても上手なのに…

3 みんなで考えてみました

先生に任せきりじゃなく私たちができることは何かしら？

私は前日に先生に電話して持ち物をみんなに伝えるわね。先生自身の確認にもなると思う

私は先生をおむかえに行って一緒に教室に行くことにしよう

4 体操教室をみんなで続けられることになりました

みんなで手伝ってくれるので、続けられるわ

私たちがA先生のように、自分の好きなことや得意なことを続けていきたいね！

こんなときに、活動をあきらめてしまう人もいるかもしれないね。Aさんの生きがいを守れたことに加えて、色々な人を暖かく受け入れる地域になっていくんだな…



地域で安心・楽しく子育て [あつまる・あそぶ・つながる]

ママやパパだけで子育てしなくても大丈夫です。地域にでると、つながる場所がいっぱいあります。安心して楽しく子育てする地域を目指しています。

子育て支援相談@地域会場

先輩ママが子育ての相談にのってくれます。相談がなくても、おしゃべりしたり、あそべます。



子育てサークル

子育て中のママたちの自主的なグループです。

あかちゃん教室@地域会場

初めて育児をするパパママと0歳のお子さんの集まりです。



園庭開放・育児相談@保育園

保育園が定期的に開放され、子どもたちや保育士さんとあそべます。また、育児相談も受けています。

こんにちは赤ちゃん訪問

地域で様々な活動をしている訪問員が、赤ちゃんのいる家庭を訪問します。



親と子のつどいの広場@民間施設

子育て中の親子が気軽につどい、交流する場所です。色々なイベントやプログラムも開催しています。

両親教室@区役所

妊娠中の方を対象にした教室です。



サロン・広場・教室@地域会場

地域の身近な会場で、自由に交流できたり、子育てに関する情報がもらえたりします。

プレイパーク・ログハウス・公園など、外遊びできる場所もたくさんあります。



●磯子区地域子育て支援拠点について、詳しくは→P.62

そのほか、地域の自治会町内会や団体・グループ、地域ケアプラザ、地区センターなどでも参加できる様々なプログラムや事業があります。住んでいる地区の行事に参加することで、地域の人達と知り合っ一緒に子育てしましょう。

●磯子区の情報



磯子区子育て支援マップ

検索

↑いそピヨInstagram

いそピヨ

検索

●市内全域(磯子区以外)の情報



親子の居場所

検索

↑ハマハグ

ヨコハマダディ

検索

3. 地区別計画

■地区別計画のページ構成

地区別計画は、9つの地区連合単位で自治会町内会、地区社協などの皆様で構成されるスイッチON推進組織が中心となり、地区として力を入れて取り組んでいくことを中心に取りまとめたものです。



根岸地区 NEGISHI AREA

地区の現状

	平成17年	平成22年	平成27年	令和2年
人口	11,115	11,383	11,099	11,737
男性	5,430	5,739	5,644	6,034
女性	5,685	5,644	5,455	5,703
人口密度	18.7%	22.0%	25.2%	25.4%
高齢化率	70.5%	67.4%	53.6%	63.2%
65歳以上人口	801	506	1,046	1,046
65歳以上人口割合	10.8%	10.6%	11.2%	11.4%

※R根岸駅周辺、八幡橋付近、浜には主要な商業施設がある。一方で高齢者等にとって買い物がにくい地区もある。

※R根岸駅周辺、八幡橋付近、浜には主要な商業施設がある。一方で高齢者等にとって買い物がにくい地区もある。

※R根岸駅周辺、八幡橋付近、浜には主要な商業施設がある。一方で高齢者等にとって買い物がにくい地区もある。

<スローガン>

- 各地域の目指す方向性
- 地域で大切にしていきたい「思い」

4期計画で力を入れたいこと

- ★今まで行ってきた見守りをさらに深め、みんなで互いにやさしい見守りができる根岸を目指します
 - ・隣近所や周りの人をみんなで互いに気にかけてあう関係を作り、地域の中に必要な見守りの仕組みや活動があれば、創出をめざし行動していきます。
 - ・隣近所や親しい人の困っていることや変化に早く気づくための見守りのポイントをみんなで考え、共有し、互いに支え合っていく関係づくりをしていきます。
 - ・地域の見守りの輪をさらに広げ、地域ケアプラザ等ともつなげていきます。
- ★継続した健康づくりができる輪を広げます
 - ・年齢問わず健康づくりができるよう、まち全体で活動を共有しながら取り組みます。
- ★話し合いの場を通して、まちの困りごとを共有し、ささえあいまち根岸を目指します
 - ・雑談やちょっとした話し合いの場を大切に、活動中の一人一人の声を拾い上げ、「ハッピー根岸」を目指して相談していきます。
- ★活動内容を工夫し、もっとみんなが集える場をつくります
 - ・町の中の活動や人材を再発見し、つながります
 - ・他の活動団体の取り組みや工夫を共有し、お互いに良いところは取り入れながら継続した活動ができるようにします。
 - ・地域で何かを得物している人を見つけて活動に招き、教えてもらったりしながら活動を広げていきます。
- ★雰囲気づくり
 - ・新しく参加した人には声かけを心掛け、その人がその場にしやすい雰囲気になるよう工夫をしていきます。

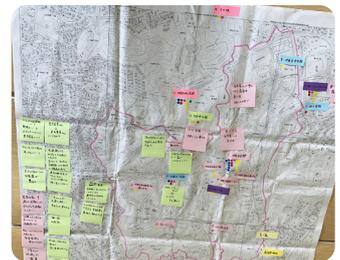
<地区の現状>

- 人口・世帯数の推移
- いちおし、地域の自慢
- これまでの取組・振り返り
- 地形・まちの特徴など

■地区別計画策定の流れ

3回のワークショップを開催し、話し合いを重ねて、地区別計画を策定しました。

- ① 地域活動を共有し、マップづくりをしながら地区の現状の振り返り。地域を再発見し、魅力や課題の共有。
- ② どんな地域にしていきたいのか、特に力を入れて取り組んでいきたいことについて意見交換。
- ③ 意見を集約し、取組についてのまとめ。地区としてのスローガンの決定。

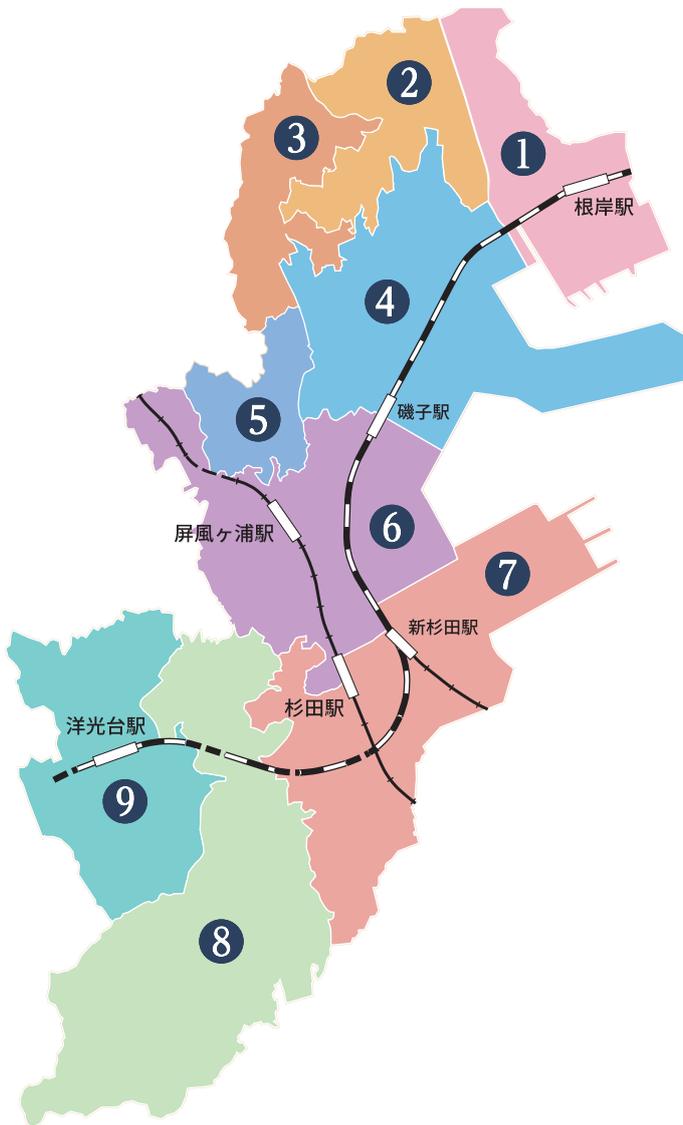


■地区別計画の進め方

- ・地区別計画推進組織が中心となって、毎年の事業計画を取りまとめ、振り返りをしながら計画を推進しています。
- ・様々な活動は、自治会町内会と民生委員・児童委員、保健活動推進員、青少年指導員などの担い手が連携しながら進めています。



●地区別計画推進組織（9地区）



① 根岸地区 NEGISHI AREA

ハッピー根岸推進委員会

② 滝頭地区 TAKIGASHIRA AREA

スイッチ ON 磯子滝頭地区推進委員会

③ 岡村地区 OKAMURA AREA

岡村地区スイッチ ON 磯子推進委員会

④ 磯子地区 ISOGO AREA

磯子地区福祉保健計画推進委員会

⑤ 汐見台地区 SHIOMIDAI AREA

スイッチ ON 磯子汐見台地区推進委員会

⑥ 屏風ヶ浦地区 BYOBUGAURA AREA

スイッチ ON 磯子屏風ヶ浦地区推進委員会

⑦ 杉田地区 SUGITA AREA

スイッチ ON 磯子杉田地区推進委員会

⑧ 上笹下地区 KAMISASAGE AREA

スイッチ ON 磯子上笹下地区推進協議会

⑨ 洋光台地区 YOKODAI AREA

スイッチ ON 洋光台推進協議会

●地域の関係する組織

・自治会町内会（168自治会〔令和3年3月末時点〕）

一定の区域に住む人々が、地域の問題を解決し、住民の皆さんの親睦を図るなど、結びつきを深めながら、豊かで住みやすいまちづくりを目指して自主的に運営している団体です。

・地区連合町内会（9地区）

地区連合町内会は、おおむね中学校通学区程度を単位とした自治会町内会により構成した自治会町内会の集まりで、自治会町内会の垣根を越えた各種事業を展開しています。

・地区社協（9地区）

『私たちの街を、お互いの力を生かしてより住み良くしていこう！』と活動している地域福祉活動の主役です。自治会町内会、民生委員・児童委員、当事者団体が会員となり、自分たちの地域の福祉のまちづくりを目的に協力しあっています。

1

2

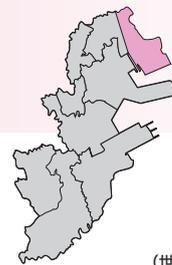
3

4

「スイッチ ON 磯子」

地区別計画

根岸地区 NEGISHI AREA



地区の現状

	平成17年	平成22年	平成27年	令和2年
総人口	11,115	11,383	11,099	11,737
14歳以下	1,204	1,208	1,243	1,343
15～64歳	7,831	7,674	7,064	7,417
65歳以上	2,080	2,501	2,792	2,977
総世帯数	5,430	5,739	5,644	6,094
一人暮らし 高齢者世帯数	データ なし	801	906	1,046

単位：人

(各年3月31日現在)



- ・JR根岸駅周辺、八幡橋付近、浜には主要な商業施設がある。一方で高齢者等にとって買い物に行きにくい地区もある。
- ・根岸駅前等には新しい集合住宅が建っている地域があり、全体の高齢化率が抑えられている地区と、古くからある集合住宅などにより地区によっては高齢化が進んでいる地区もある。
- ・昔からの住民の結びつきが強く、連合町内会を中心に組織化されている。一方で新しい集合住宅が建っている地域では新しい住民が増えている。
- ・ボランティア活動や住民同士の支え合いへの取り組みにも熱心に取り組む地区である。



綺麗に手入れされた公園



根岸なつかし公園



堀割川

自主活動が各まちで活発に行われています！



みんなで体操♪



根岸の行事のカレンダーの発行



様々なサロン活動



グラウンドゴルフで交流



子ども向けの取り組み



ささえあう、やさしい町、ねぎし

4期計画で力を入れたこと

★今まで行ってきた見守りをさらに深め、 みんなで互いにやさしい見守りができる根岸を目指します

- ・隣近所や周りの人をみんなでお互いに気かけあう関係を作り、地域の中に必要な見守りの仕組みや活動があれば、創出をめざし行動していきます。
- ・隣近所や親しい人の困っていることや変化に早く気づくための見守りのポイントをみんなと考え、共有し、互いに支え合っていく関係づくりをしていきます。
- ・地域の見守りの輪をさらに広げ、地域ケアプラザ等ともつながって行きます。



★継続した健康づくりができる輪を広げます

- ・年齢問わず健康づくりができるよう、まち全体で活動を共有しながら取り組みます。

★話し合いの場を通して、まちの困りごとを共有し、 ささえあうまち根岸を目指します

- ・雑談やちょっとした話し合いの場を大切に、活動中の一人一人の声を拾い上げ、「ハッピー根岸」をはじめ根岸地区全体の集まりの中で相談していきます。



☆ハッピー根岸☆

ハッピー根岸は、各自治会町内会の代表者、関係機関の代表者、実施事業の担い手と区担当者、区社協及び根岸ケアプラザ職員をメンバーとし、計画の策定や各実施事業の共有を行っています。また、地域での出来事に対して皆で知恵を出し合う課題解決の場にもなっています。

☆いきいき健康づくり☆



ストレッチやリズム体操、脳トレ等みんなで楽しく身体を動かす、運動を習慣にする健康づくりに取り組んでいます。

★活動内容を工夫し、もっとみんなが集える場をつくります

町の中の活動や人材を再発見し、つながります

- ・他の活動団体の取り組みや工夫を共有し、お互いに良いところは取り入れながら継続した活動ができるようにします。
- ・地域で何かを得意にしている人を見つけて活動に招き、教えてもらったりしながら活動を広げていきます。

雰囲気づくり

- ・新しく参加した人には声かけを心掛け、その人がその場にしやすい雰囲気になるよう工夫をしていきます。



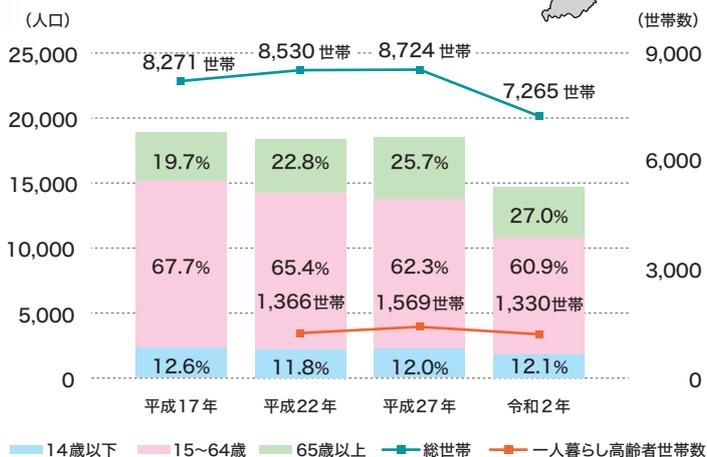
滝頭地区 TAKIGASHIRA AREA



地区の現状

	平成17年	平成22年	平成27年	令和2年
総人口	18,885	18,395	18,489	14,700
14歳以下	2,375	2,167	2,210	1,777
15～64歳	12,790	12,034	11,526	8,950
65歳以上	3,720	4,194	4,753	3,973
総世帯数	8,271	8,530	8,724	7,265
一人暮らし高齢者世帯数	データなし	1,366	1,569	1,330

単位：人 (各年3月31日現在)
 ※平成27年度に地区を構成している自治会町内会に変更がありました。



■ 支え合い活動が盛んな地域



「サロン滝さん」

- 身近な場所での茶話会(サロン)が地域に定着し、新しい参加者も増えてきました。参加者同士が声をかけあって参加しています。

■ 身近な場所でこまやかな活動がある



「敬老会」

- 自治会町内会単位で特徴ある活動をしており、顔見知りの関係が少しずつできています。担い手として様々な方が活動していますが、一方で固定化や高齢化による担い手不足が悩みです。

■ 住民のつながりが多い地域



「みんなで一緒に盆踊り」

- 各自治会町内会での見守りや交流が盛んです。

■ 世代間交流事業を長く継続実施している地域



「お祭りのお神輿」

- 新しい住人が増え、世代交代し、子どもが増えている地域もあることから、住民同士の交流を目的に、様々な事業を展開しています。行事やイベントによっては、子どもの参加が少なくなってきました。

人にやさしく滝頭

～身近な地域で支え合いを広げよう～

4期計画で力を入れたこと

I 見守りや支え合いの仕組みをさらに広げます。

- これまで自治会町内会単位の見守り活動や支え合い訪問員活動、青色防犯パトロールなど、様々な見守りや支え合いに取り組んできました。第4期では障害者や子育て世代、外国の方々も共に支えあいの輪を広げていきます。また、身近な場所で顔見知りになれるよう、小さな範囲での活動をさらに充実していきます。
- 災害時に備え実施している各自治会町内会の防災訓練や防災拠点訓練などに参加を促すとともに、有事の際の要援護者に対する配慮等について検討、共有します。



防災訓練でトイレの設営

II みんながいきいきと過ごせるまちづくりを進めます。

- 現行の事業を継続する中で、次世代を担う子どもたちが、健やかに育つための工夫を検討、実施します。
- 住民が気軽に参加できる健康づくりのイベントなどを通じ、心身の健康について理解を深めます。また、地域住民同士がさりげない気づかいや手助けができるよう啓発活動を進めます。



子どもも大人も一緒にラジオ体操



ご近所のサロンで体操

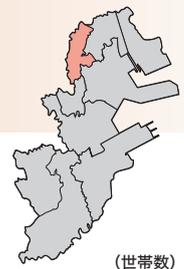


人気のグラウンドゴルフ

住民同士が誘いあっているような行事に参加してくれるようになるといいね。



岡村地区 OKAMURA AREA



地区の現状

	平成17年	平成22年	平成27年	令和2年
総人口	10,487	10,227	10,110	13,985
14歳以下	1,448	1,334	1,254	1,671
15～64歳	7,083	6,521	6,120	8,327
65歳以上	1,956	2,372	2,736	3,987
総世帯数	4,271	4,414	4,470	6,404
一人暮らし高齢者世帯数	データなし	598	754	1,170

単位：人 (各年3月31日現在)
 ※平成27年度途中から1自治会(約800世帯)が加入しています。



住民同士のつながりが強く、団結力がある

- 各種行事を行うなか、地域みんなの協力、団結力が強い。地域の諸団体は地区連に結集して、様々な行事などで戦力として貢献している。

様々な活動が盛んな地域である

- 行事が数多くあり、年間を通して楽しめる。活動に参加することによって人とのつながりの機会が増え、お互いを支えあう下地をつくっている。
- 子ども会主催のクリスマス会や老人会が行う三世代交流などのイベントも盛んである。一方で、子どもの参加が減少傾向にある。

集う施設は少ないが、大きな公園などの様々な場所を活用している

- 地域のあちこちに公園があり、新しく岡村西公園も開園。公園が良いコミュニケーションの場であり、行事の会場にもなっている。
- 岡村天満宮や三殿台遺跡、岡村公園、久良岐公園・能舞台など都会空間の中に憩いの場や施設があり、居住環境に恵まれている。
- 小中学校は、学校施設の会場提供や、児童・生徒の地域行事への参加に協力的である。
- 西部連合自治会館が集まりの中心になっているが、坂が多いため高齢者などには行きやすい場所とは言えない。



梅まつりでの子ども達の発表



高齢者の集い



岡村公園で盆踊り

未来へつなごう伝統文化のあるまち岡村 ～ 支え合いと地域の魅力を発展させよう～

4期計画で力を入れないこと

★身近な場所で支えあいを進めよう

- ・近くに住む皆さんが顔見知りになり、日常的な助け合いが生まれるよう、身近で小さな行事などを実施します。
- ・高齢になってもいきいきとした生活が送れるよう、全世代を対象に心身の健康につながる啓発をさらに進めます。
- ・行事への参加が困難な方のために移動手段について検討し、新しい顔の参加者を増やす工夫について考えます。
- ・防災意識を高め、防災訓練参加者を増やし、有事の際の助けあいにつなげます。
- ・要援護者や外国人などが日頃から地域でのつながりをつくれるよう、各種事業への参加を促進します。



高齢者サロンでご近所さんと楽しい時間



みんなで健康体操

★より多くの住民の参画を進め、より魅力あるまちを発信しよう

- ・住民の誰もが得意なことや興味のあることを生かして自治会活動や地域活動に参画できるよう、各種取り組みを進めます。
- ・ホームページやSNSを活用して自治会活動や地区の行事を効果的に発信していきます。また、その際に新たな担い手が参加できる工夫に努めます。



歴史を学びながらウォーキング

★次の時代を担う子どもたちと「岡村愛」を育もう

- ・子どもたちの現状を理解した上で、興味や関心のある行事を考察・実施し、主体的に地域活動に関われる体制をつくります。
- ・より身近な地域で実施される行事などへの参加を働きかけます。
- ・地域で子どもたちが安心して過ごせる居場所づくりを進めます。



大人と子どもと一緒に凧づくり

地域を愛する子どもたちが何よりの財産だね！



磯子地区 ISOGO AREA



地区の現状

	平成17年	平成22年	平成27年	令和2年
総人口	20,681	21,146	23,228	24,118
14歳以下	2,513	2,468	2,868	3,144
15～64歳	14,443	14,258	14,870	14,852
65歳以上	3,725	4,420	5,490	6,122
総世帯数	9,276	9,961	10,963	11,675
一人暮らし 高齢者世帯数	データ なし	1,300	1,619	1,917

単位：人

(各年3月31日現在)



◆国道沿いのエリアには区役所などの公的機関や商業施設が集まっています。

◆地域は、工業地(埋立地、新磯子町、磯子1丁目)、JR根岸線や国道16号に沿った平坦な市街地(磯子2丁目～4丁目、広地町、久木町)と、丘陵地の市街地(磯子5丁目～8丁目、磯子台)からなっています。

◆丘陵地の磯子台には大規模マンションが建設され、若い世代が増えています。

◆丘陵地からは東京湾臨海部や房総半島を展望することができ、北部ではみなとみらい地区も臨めるなど景観に恵まれた地域です。豊かな自然に恵まれた久良岐公園にも隣接しています。

◆磯子3丁目を中心に外国籍の方が多く住んでいます。

◆久木町には、古くから地域で親しまれているレトロな雰囲気が残る「浜マーケット」があります。

◆長く地域に親しまれ、鎌倉時代から続く、歴史的、文化的に貴重な金蔵院や日枝神社などがあります。

◆夏祭りや健民祭、ふれあい運動会、七福神巡りなど、行事を地域全体で盛り上げています。

◆「昔遊び」を通じて多世代が交流する、町内会などの活動もあり、子ども達に喜ばれています。



みなとみらい地区を臨む



日枝神社



浜マーケット



夏祭り 金蔵院



七福神巡り 真照寺



昔遊び 小学校体育館

みんなが住みやすい町、磯子 ～あいさつと笑顔あふれるやさしい町～

4期計画で力を入れないこと



磯子地域ケアプラザ
マスコット
「こいそちゃん」

何かをしたい時や、災害時にも情報が大切!日頃から町の掲示板や回覧板などをよく見て情報を得るといいね。ケアプラザとも連携しながら、困りごとを解決しているよ!

◎ 地域のなかでさりげない見守りを広げ、みんなで支えあえるまちをめざします。

- 高齢者、障害者、子ども、生活に困りごとがある方など、地域の中でさりげない見守りの輪を広げます。



子ども食堂「プラザdeごはん」

- ちょっとした困りごとを「おたがいさま」の気持ちで助け合う、誰もが住みやすいまちをめざします。



ちょこっとボランティア「えがお」

- 誰もが安心して生活できるまちをめざして、日頃から防災意識を高めます。



地域防災訓練

- 声かけやあいさつをすることで、顔の見える関係づくりをします。



災害時の安否確認・防犯パトロール



地域の中には、支え合いの活動がたくさんあるんだね!電球の交換やお買い物など、ちょっとしたお手伝いをしてくれるボランティアグループも活動しているよ。いろいろな交流をこれからも続けていきたいな。



お弁当お届け隊

◎ 誰もが気軽に参加しやすい活動の場をつくり、幅広い世代で交流します。

地域のイベントについて...

- よりよい活動が継続して出来るよう工夫します。
- 誰もが参加しやすい活動にしていきます。



ふれあい運動会



地域の体操教室

- 心と体の健康を保つために、いきいきと楽しくすごせる場づくりを心がけます。



地域の集いの場



スイッチON「落語会」

- 気軽に参加し、楽しくすごせる活動をおして顔を合わせた交流をしていきます。

一人暮らしの高齢者や、障害のある方が参加する「ふれあい運動会」は25年以上も続いているんだね。中学生がお手伝いをしてくれて大変助かっているよ。「体操」や、「落語会」など気軽に参加できる集いの場もあるんだって。今ある活動を大切に続けていきたいね!



汐見台地区 SHIOMIDAI AREA



地区の現状

	平成17年	平成22年	平成27年	令和2年
総人口	7,249	7,918	8,853	8,613
14歳以下	1,338	1,491	1,771	1,633
15～64歳	5,088	5,363	5,707	5,476
65歳以上	823	1,064	1,375	1,504
総世帯数	3,213	3,650	3,820	3,663
一人暮らし 高齢者世帯数	データ なし	289	412	453

単位：人

(各年3月31日現在)



- ・一団地の住宅施設として都市計画決定されていることで、戸建てがなく全て集合住宅の地域となっている。
- ・企業の寮や社宅だった建物が新しいマンションに建て替えられ、働き盛り世代の転入も多いことから、若い世代の割合や年少人口が増加していて子育て世代の住民が多い。
- ・高齢化率は区内で最も低いが、昔から暮らす高齢者も多く、一人暮らしの世帯も多い。
- ・52の自治会があり汐見台自治会連合会が中心となって、各委員会や住民が担い手となり、様々な取組を行なっている。
- ・夏祭りや、健民祭などの恒例行事をはじめ、各委員会や保健活動推進員の活動など年間を通して一体的に開催されている。
- ・風致地区であり、身近に自然豊かな環境もあり、地域住民で守られている。
- ・子育て中の働き世代が多く、転出入も多いため、地域とのつながりが持ちにくい。

安心・安全であることは地域に住むみんなの住みやすさにつながるね。



汐見台の元気な子どもたち！



汐見台夏まつり



汐見台健民祭

みんなで目指そう！ 誰もが幸せに暮らせるまち汐見台

4期計画で力を入れたこと

1.共に支え合うお互いさまのまち

- ・日頃からのつながりや助け合いを大事にし、まずはあいさつし合うところから始め、気軽にコミュニケーションが取れるようにする
- ・困りごとがある方のサポートをさり気ない見守りを通して行う
- ・誰もが安心して過ごせるように、自分もまわりも気にかける



汐見台のみんなで応援！瀧川鯉丸
「ふれあい寄席」



力を合わせて、地域の支えあい
「救命・救急・救出法講習会」

階段での救助訓練の様子だね。



心・体・語りの寄り処「汐見台語らい処」

2.自分らしく健やかに暮らせるまち

- ・今ある場所を生かしつつ、身近な場所に集える場所をつくる
- ・得意なことや好きなことで、つながりづくりの機会をつくる
- ・楽しく気軽に、活動に参加し、心も体も健康的に過ごす



秋の浪漫ウォーキング
「健康づくりウォーキング」



音符に乗せて、健康づくり
「うたの広場」



歌って笑って、楽しいひととき
「ふれあい茶話会」

3.多様性を認めあい活動が広がり、つながりのあるまち

- ・幅広い世代、障害児・者、外国にルーツのある人など様々な人を対象にした活動の充実
- ・ニーズにあった活動を考えて、世代を越えたつながりをつくる
- ・活動を始めたい人、活動している人の後押しをする
- ・地域で活動している、たくさんの思いを大切に、よりよい活動になる場をつくる
- ・必要な人に必要な情報を届ける工夫をする。対象者に合わせた方法の検討



50年、皆で繋いだ地域の本棚
「汐見台文庫」



交流しながら、街をきれいに！
「エコパトロール」



汐見台中学校茶道部の皆さんにお点前
「ふれあい昼食会」

屏風ヶ浦地区 BYOBUGAURA AREA



地区の現状

	平成17年	平成22年	平成27年	令和2年
総人口	28,589	28,931	28,692	29,795
14歳以下	3,157	3,174	3,073	3,195
15～64歳	19,545	18,951	17,932	18,585
65歳以上	5,887	6,806	7,687	8,015
総世帯数	12,458	14,168	14,265	15,363
一人暮らし 高齢者世帯数	データ なし	2,093	2,463	2,838

単位：人

(各年3月31日現在)



山坂が多い地域だからこそ、高齢者との地域交流が大切なんだね。



- ・地形の関係で山坂や狭い道が多いが、比較的になんが豊富である。
- ・区内でも高齢化率が高い地区であり、また一人暮らし世帯も多い地域である。
- ・磯子駅前にはマンションが中心となっている。
- ・山坂が多い地域に住む高齢者の中には、利便の良い駅近くのマンションへ転居する方もみられる。
- ・交通の便が悪い地域もあり、地域活動の場所へ行くことができない高齢者もいる。
- ・自治会町内会での活動が活発であるとともに、屏風ヶ浦地区全体としての活動も大事にしている。
- ・自治会町内会と民生委員等が担い手となり、定期的にサロンや食事会などを開催している。
- ・夏まつりやクリスマス会、餅つき大会などの季節の催し、介護予防のための健康体操や趣味の会など、自治会町内会ごとに開催されており、身近な地域活動が活発である。
- ・障害者施設があり、日常的に交流を持つことで、地域に根付いている。

サロン・演奏会で地域交流！



地域と障害者事業所の方々による「サロン梅の里」でのハンドベルの演奏会♪♪

定期的に行われているサロンで、介護保険の勉強会の様子！！



支えあい、人のやさしさつながる屏風ヶ浦

4期計画で力を入れたいこと

日頃からの繋がり支えあいを大切にします

- ・住み続けたいと思う地域づくりを行います。
- ・日頃から声をかけあう関係づくりを行います。

子どもや高齢者も一緒に、グラウンドゴルフで多世代交流♥



多世代が集い、ふれあいの機会を増やします

- ・イベントやお祭りなどの行事を通して、住民同士の交流を図ります。
- ・子どもたちが活動できる場を増やします。

思い出づくりができる魅力的な地域を目指します

- ・自分たちの地域を好きになってもらえる取組みを行います。

地域住民が活躍できる場を増やします

- ・ちょっとした手伝いから地域活動に参加してもらえるようにします。



ボランティアの皆さんによる配食活動。おいしい手作りのお弁当!

健康づくりの取組を継続していきます

- ・身近な活動を通して健康づくりに取り組みます。
- ・得意を活かした活動を行うことで、心身の健康づくりを目指します。

様々な活動があるね。



健民祭!! さあ!!
みんなで一緒に準備体操

ウォーキングを兼ねた
地域探訪。
地域の方が案内人!



イベントなどへの参加から、出来ることや得意なことを生かしたつながりづくりをします

- ・誰もが気軽に参加できるように工夫し、次世代に伝えていきます。

子どもたちの成長を地域で見守っていきます

- ・学校やPTA・自治会などが連携しながら、子どもたちが輝ける場をつくりま

いろいろな人が生活する地域のなかで、お互いの理解を深めていきます

- ・日頃からのあいさつやつながりを通して障害のある方や困りごとがある方への理解を広げていきます。

コミュニケーション手段や情報をとどける方法を工夫します

- ・届ける人に合わせて、相手を思いながら工夫します。



屏風浦小学校の児童、保護者、地域の皆さんの交流が楽しい夏のイベント「ほっと・ナイト・夢まつり」

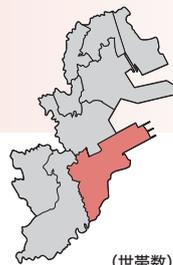


障害事業所の手作りクッキーやパンをイベント会場で販売



毎年開かれる地域防災拠点訓練の様子。大勢の人が参加

杉田地区 SUGITA AREA



地区の現状

	平成17年	平成22年	平成27年	令和2年
総人口	24,564	24,025	23,650	23,870
14歳以下	3,050	2,856	2,775	2,728
15～64歳	17,146	15,923	14,732	14,520
65歳以上	4,368	5,246	6,143	6,622
総世帯数	11,693	10,797	10,880	11,491
一人暮らし 高齢者世帯数	データ なし	1,323	1,622	1,844

単位：人

(各年3月31日現在)



- * 海側の工業地、低地の市街地、丘の上に形成された住宅地に大きく区分される。
- * 杉田梅が有名で地区内に妙法寺や梅林小学校、大谷梅園など梅の名所がある。
- * 3つの鉄道駅を中心に昔ながらの商店街や商業施設が集まり賑わいのある町であるが、丘の上の住宅地等では移動や買物等に課題を感じている人も多い。
- * 利便性の良い活動場所(各種施設等)が豊富だが、身近なところに活動に適した場所が無い地区もある。
- * お祭りなどの地域行事が盛んで、世代を問わず多くの方が参加されている。
- * 高齢者の活動が盛んな地区であるが、老人会等の活動存続等に課題を抱えているところも多い。
- * 健康づくりの活動が盛んである。
- * 各自治会の活動(防犯・防災パトロールや小学校見守り隊など)が地域の安全・安心に繋がっている。
- * 活動の担い手にどの地域も悩んでおり、活動を支える仕組みづくりが必要。
- * 自治会町内会の子ども会が減少している中、地域の未来の担い手である子どもとその家庭を、地域で支える仕組みを広げていくことが必要。



大谷梅園



令和2年10月より、杉田地区内で地域の声から移動販売が始まったよ!



杉田まつり



元気づくりステーション「さくら」

杉田地区には、元気づくりステーションが5か所もあるよ!



子ども食堂「キッチンうめちゃん」のような、子育てを地域で支えるような活動がさらに広がっていくといいね!



子ども食堂「キッチンうめちゃん」

支えあい、明るい杉田でみな元気 ～あいさつで互いを気づかうまち～

4期計画で力を入れたいこと

見守り・支えあいの活動を広げよう

あいさつ あいさつや声をかけ合うことから顔の見える関係づくりをすすめます。

見守り

子どもから高齢者、外国にルーツを持つ方、障害のある方や病気などにかかわらず、誰もがお互いを気に掛けながら住み慣れた地域で安心して住み続けられるまちをめざします。

安心・安全

災害時などいざという時に生きる、自助・共助の力を養う取組を行います。



ふれあい食事会(杉田台)



すぎたからつな5(いぶきまつり)

気軽に楽しく続けられる地域の活動に参加しよう

気軽に参加

身近な場所でのイベントに、誰でも、より気軽に参加しやすくなるようにしていきます。

やりがい

自身のできることで楽しくやりがいをもって活躍できる機会を増やします。

健康づくり

健民祭やウォーキングなど健康づくりの活動を今後も継続して開催し、ともに楽しみながら、交流を図ります。



防災訓練(浜中学校)

みんなで杉田地区について考えよう

交流

地域で活躍する団体や組織同士、多世代の交流を盛んにし、みんなで地域全体を盛り上げます。

話し合い

杉田地区がより魅力ある地域になるような話し合いの場をつくります。

情報

必要な方に情報が届くような情報発信・共有の方法を工夫します。



健民祭



ラジオ体操(新杉田公園)

仕組みづくり

地域の団体や組織の運営を見直し、活動者に負担が偏らないような仕組みを考えていきます。

子育て

住みやすく、子育てしやすいまちづくりを目指します。杉田が子どもたちのふるさとになるように自治会町内会や団体の垣根を越えて地域全体で子育てを支援します。



JA子育てフェスタ



ブーケまつり



かがやきクラブ演芸大会(杉田劇場)

上笹下地区 KAMISASAGE AREA

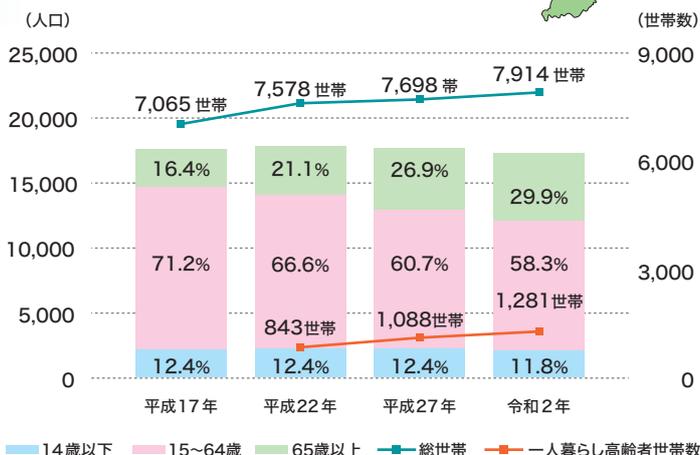


地区の現状

	平成17年	平成22年	平成27年	令和2年
総人口	17,612	17,875	17,693	17,250
14歳以下	2,183	2,211	2,186	2,030
15~64歳	12,541	11,901	10,746	10,064
65歳以上	2,888	3,763	4,761	5,156
総世帯数	7,065	7,578	7,698	7,914
一人暮らし高齢者世帯数	データなし	843	1,088	1,281

単位：人

(各年3月31日現在)



磯子区の南端に位置し、金沢区、港南区、栄区に接している、地区を南北に県道笹下釜利谷道路が通っています。また、地区の南西側は市街化調整区域(磯子カンツリークラブゴルフ場、峰市民の森、氷取沢市民の森、農業専用地区を含む氷取沢緑地等)になっています。

自然や畑、神社があるまち

- ・自然が多く、さまざまな動植物が生息しています
- ・神社(田中、栗木、峰白山、上中里、氷取沢、金山)を中心に六ヶ町として発展しました

地区が南北に細長く多様性のある地域

- ・古くから人がいる地区、戦後に人が増えた地区、自然などの色々な要素が集まっています
- ・様々な変化がある反面、地区全体で集まることや同じ内容の事業を展開しづらくもあります

地域活動が活発

- ・大岡川を軸とした防災・防犯に対する意識が高く活動も活発で安全・安心なまちです
- ・夏祭りや盆踊りなど地域ごとの活動が盛んで世代を問わず交流していますが、最近は参加者が減少傾向です
- ・経験や知識を活かして活躍している人が多いです
- ・各自治会町内会で工夫を凝らし、高齢者の昼食会や個別訪問など地域のきずなを大切にしています



栗木神社



上中里神社



田中神社



白山神社



土とのふれあい



氷取沢神社どんと焼き

自然とともにつながりのあるまち上笹下 ～ 魅力を発見していこう！知って楽しもう！～

4期計画で力を入りたいこと



氷取沢市民の森

魅力

地区にある自然歴史等の魅力を再発見し、地域づくりに生かします

情報共有

各自治会町内会等の情報を持ち寄り、共有する機会を増やすことで、地区のつながりを拡げます



移動販売

話し合い



モデルルームをお借りして、地域でサロン活動

連携

既存の活動を各自治会町内会や各種団体・地域企業等が協力しながら進めます

地域参加

誰もが得意なことで少しずつ地域活動に参加でき、気軽に活動が始められる雰囲気をつくります



身近な場所で健康づくり(元気づくりステーション)



夏祭り

交流

夏祭りなど幅広い年代が参加・交流できるきっかけをつくり、住民同士のつながりを強くします

見守り

感染症の影響があっても工夫しながら、地域でのさりげない見守りやふれあい昼食会等を行い、顔の見える関係づくりをさらに拡げます



ふれあい昼食会

※ふれあい昼食会は各地区12カ所の自治会町内会で開催

取組の継続



防災講座

防災

防災の取り組みを拡げ、地域住民の自助・共助の力を厚くして、災害に強いまちづくりを目指します

防犯

防犯パトロールや登下校時の見守り等をより一層充実させ、治安の良いまちを守ります



登下校見守り



防災訓練



1

2

3

4

「スイッチON磯子」 上笹下地区

洋光台地区 YOKODAI AREA



地区の現状

	平成17年	平成22年	平成27年	令和2年
総人口	26,450	26,000	24,839	23,893
14歳以下	3,255	3,039	2,639	2,319
15～64歳	17,466	16,186	14,622	13,946
65歳以上	5,729	6,775	7,578	7,628
総世帯数	11,816	12,375	12,036	12,157
一人暮らし 高齢者世帯数	データ なし	1,777	2,188	2,523

単位：人

(各年3月31日現在)



- ・自治会の団結力が強く、行動力がある人が多い。洋光台としての一体感があり、洋光台愛を感じられる。
- ・地域のイベントや活動が盛んに行われている。
- ・坂道が多く、足腰が鍛えられる。一方、高齢者など移動に不自由な人もいます。
- ・公園や街路樹が多く、清掃などの活動が盛んなこともあり、きれいに整備されているので、街全体が落ち着いている。



これまでの活動について！

「見守り・支えあいを進める」「子どもから高齢者まで幅広い世代の健康づくり」「子どもの成長を地域で支える」を目標に、洋光台では様々な内容の活動がたくさん行われてきました。



グラウンドゴルフ大会開催などを通じ、近隣同士の交流を深め、災害時等の互いの助け合いや、健康寿命の延長にも繋がります。



健康寿命を延ばすことを目的に高齢者にも出来る洋光台オリジナルの体操を作成。洋光台の様々な場所で実施しています。YFサロンでは、リーダーと参加者が協力しています。



毎月一回、ケアプラザ及び北団地集会所でピアノ伴奏に合わせ皆で一緒に大きな声で歌っています。心身の健康作りをしながら、お互いの繋がりを深めています。



災害時要援護者名簿に基づいて、各自治町内会の訪問員による、要援護者の情報交換、安否確認を行い、災害時の体制づくりを進めています。

こんにちは！笑顔の行き交う洋光台！

4期計画で力を入れたいこと

支え合いの推進

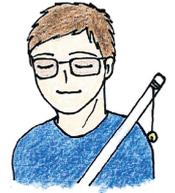
人と人の心のつながりを絶やさない街に

- ・感染症の影響下でも”あなたのことを気にかけている”ということをお互いに伝え、安心して暮らせる洋光台にしよう。
- ・子どもから大人まで地域みんなが基本のあいさつを大切に、声かけをしよう。



こんにちは！

元気ですか？



いかがお過ごしですか？



健康づくりの推進

楽しい健康づくりを行います

- ・自然の中で体を動かす！朝一番に集まる！などの工夫をしよう。

毎日同じ時間に行うことで、生活リズムが整い心身の健康を保つ効果が期待できます。様々な人が集まり、交流を図ることで、地域の活性化にも繋がります。



子どもを支える

洋光台で良い思い出が作れるような取り組みをします

- ・子どもが多様な経験をすることで、感動を与えることができる取り組みを考え、活動をしよう。
- ・子どもに関わる機関や子どもを支える活動をしている団体などの繋がりを活かして子どもが抱える課題や困りごとを地域で解決をしていこう。



内容を工夫することで、参加する子どもや保護者、運営する人など、多世代を通じた交流の場を提供しています。

活動を広げる

1人でも多くの仲間を増やします

- ・お互いに積極的に声かけをし、誰でも気軽に参加できるようにしよう。
- ・様々な人が話し合える場を設け、地域に何が必要かを捉えながら、繋がる方法を考えよう。



参加者が主体的になれる活動を展開します

- ・一人一人ができることや得意なことを活かせる活動にしよう。

洋光台で行われている活動や施設を活用し、交流を広げます

- ・自治町内会館、CC ラボ、公園、ケアプラザ、コミュニティハウス...などを活用して、洋光台の活動の繋がりを深めよう。

1

2

3

4

「スイッチON磯子」 洋光台地区

■地域で活動する関係機関や各種団体の紹介

磯子区を支え、日々活躍している皆さんが、地域のなかでどんな活動をしているのかご紹介します。活動の一つひとつが「誰もが幸せに暮らせるまちをみんなであげます」ことにつながっています。

民生委員児童委員協議会

区内の10地区において、高齢者や障害のある方、乳児から児童まで、地域の身近な見守り・相談役として、住民と寄り添った活動を行っています。それぞれの地区の特徴に沿って、区役所や地域ケアプラザ等の関係機関と協力しています。



主任児童委員連絡会

各地区から1名～2名。現在は、18名で活動しています。子どもたちが安心して過ごせるよう、学校や区役所などの行政機関のパイプ役として、子育ての見守りをしています。また、その地域を担当する民生委員との連携を大切に元気で笑顔の多い地域になるお手伝いが出来ればと日々活動しています。



青少年指導員協議会

いそごどもまつりや紙ヒコーキ大会などの行事、深夜パトロールなどを通じて、子どもの健全な成長を見守る活動をしています。第4期では児童だけでなく中高生の居場所も作ることができるような活動を考えています。



スポーツ推進委員連絡協議会

区の行事としては、グラウンドゴルフ大会、歩け歩け大会、区民輪投げ大会、また区民駅伝大会、健民祭の実行や小学生対象にドッジビーの普及などを行っています。これらの行事を中心に、各地区ではそれぞれ工夫を凝らしたスポーツ行事を開催しています。これからもたくさんの方が参加して体を動かすきっかけになっていただければと思っています。



保健活動推進委員会

「地域の健康づくり」を主要テーマに感染症の予防、特定健診やがん検診の普及啓発、様々な場を利用した体力測定、身近な場所での体操教室、小学校での喫煙防止教室、ウォーキングイベント開催、赤ちゃん教室の支援など、地域に根ざした活動に取り組んでいます。



活動の意気込みが素敵なおいにあふれているね。



食生活等改善推進委員会

食料が十分でなかった時代の栄養改善から、現在は「健康横浜21」推進のための活動を続けているボランティア団体です。私たちにとって「食」は、生きていく上で欠かせない重要なものです。近年では地域の子育て支援拠点や小中学校との連携事業、地域ケアプラザや地区センターでの食育活動に積極的に取り組んでいます。



磯子区老人クラブ連合会

様々な活動を各老人クラブで行っています。あるクラブでは、サロン活動でひとり暮らしの高齢者を中心に、軽い体操から始めて、歌を歌ったり、クイズをしたりして活動しています。同じ境遇の仲間同士が近況を語り合う場でもあり、楽しいひと時を過ごしています。これからも元気になる活動を続けていきます。



子ども会連絡協議会

子ども達の健全育成には子ども同士異年齢で集う環境が必要と考え、地域と諸団体の協力を得て活動しています。書道展、子どもバザー、磯子区ジュニアリーダーズクラブ主催で夏休みにキャンプなどを開催しています。これからも地域で子ども達が楽しめるような催しを考えていきます。



親と子のつどいの広場連絡会

「親と子のつどいの広場」6か所と磯子区地域子育て支援拠点が会し、子育てに関わる情報、意見交換の場を年4回開催しています。安心・安全な居場所づくりを考え、磯子区で楽しく子育てができるよう、子育て家庭を応援していきます。



ボランティア団体

各地区で様々なボランティア団体が活動しており、配食活動での要援護者の見守り、施設入所者と地域住民の交流の場づくりへの協力などの活動を行っています。また、地区の諸行事には積極的に参加し、スイッチON磯子推進の一翼を担っています。地域の活動に協力できる方ぜひご参加ください。

(区社協:ボランティア・市民活動関係分科会代表)



障害者当事者団体部会

お互いの障害の特性を理解し、共に参加できる活動として、バスハイクを一緒に楽しんでいます。これからは多くの団体と交流し、また市民の方からは気兼ねなく声を掛けていただき触れあえたらいいなと思います。



こども食堂ネットワーク連絡会

現代の子どもたちが抱える「孤食」「居場所の問題」「貧困」と向き合い、少しでも必要な人の支えになればと願い、「食事提供」「一緒に遊ぶ体験」「学習支援」などの活動を続けています。これからも子どもたちの笑顔のために頑張ります！



磯子区 NPO 連絡会

磯子区内のさまざまな分野のNPOが連携・協力して、定期的な意見交換やイベントを実施しています。NPO 団体が連携することで、地域課題の解決への市民パワーを向上させ、暮らしやすい地域をみんなでめざしています。



横浜市老人福祉センター 喜楽荘

磯子区内唯一の老人福祉センターとして、高齢者の健康増進、教養向上を目的とした「健康づくり」、「介護予防」「仲間づくり」の機会や場を提供しています。



いそご地域活動ホーム いぶき

障害のある方のデイサービスやショートステイの他、子どもたちが遊べるおもちゃ文庫や、誰もが使える地域交流コーナー、喫茶コーナーがあります。また、秋には地域の皆さん誰もが楽しめる「いぶきまつり」を開催して、垣根のない地域づくりを目指しています。是非お越しください。



保育園

保育園では乳幼児期のお子さんの「豊かな育ち」のため保育を行っています。また地域の子育て中の保護者の方への育児支援も行っています。地域住民の方とも様々な形で交流しています。この「わ」を広げていきます。

中学校

磯子区には7校の中学校があり、子どもから高齢者のすべての世代や障害のある方々と顔の繋がった関係が築けるよう、それぞれの学校が工夫しながら地域の皆様と交流しています。これからも地域の中の「学校」として多くの事に取り組んでいきたいと思ひます。

小学校

磯子区内の小学校16校では、豊かな教育を実現するために集まり話し合って連携しています。合言葉は、「手をつなごう笑顔いっぱい大好き磯子区」です。中学校校長会との連携も盛んに行っています。

消防団

磯子消防団では、災害対応のほか地域の安全・安心を守るためさまざまな訓練や研修などを実施しています。地域活動にも参加し、幅広い年齢層で交流を持ち、地域での支えあいや助け合いの輪を広げ、防災力向上やコミュニティ振興の役割も担っていきます。



横浜型医療的ケア児・者等コーディネーター

医療的ケア児・者、重症心身障害児・者等と医療・福祉・教育などの社会資源をつなぎ、医療的ケアや重度な障害があっても、その人らしい生活を送ることができるよう支援します。



磯子区在宅医療連携拠点 相談室かけはし

市民の皆様が住み慣れた地域で、安心して自分らしい療養生活が送れるよう、私たちが様々な「かけはし」となり、在宅医療と介護の発展と連携をすすめていきます。往診医のこと、訪問看護のことなどご相談ください。



磯子事業会

磯子事業会には、区内の様々な業種の地元企業85社が加盟しています(令和3年3月現在)。磯子区と「地域活性化に関する包括連携協定」を締結し、それぞれの持つ資源やノウハウを生かし、子どもや高齢者、防災に関することなど、地域の活性化に関わる様々な取組を進めています。その一つとして、横浜マラソンの際には、地域の方々と沿道の清掃活動を行っています。



磯子区商店街連合会

磯子区商店街連合会には、磯子区内の15の商店会が加盟しています(令和3年3月現在)。商店街は、身近なお買い物の場であるとともに、季節に合わせたイベントや多世代で楽しめる催しなど、地域に密着したさまざまな取組を行っています。商店街では、買い物を通した地域の見守りや防犯活動なども行っており、安全で明るく、賑わうまちをめざし、地域の皆様の生活を支えています。



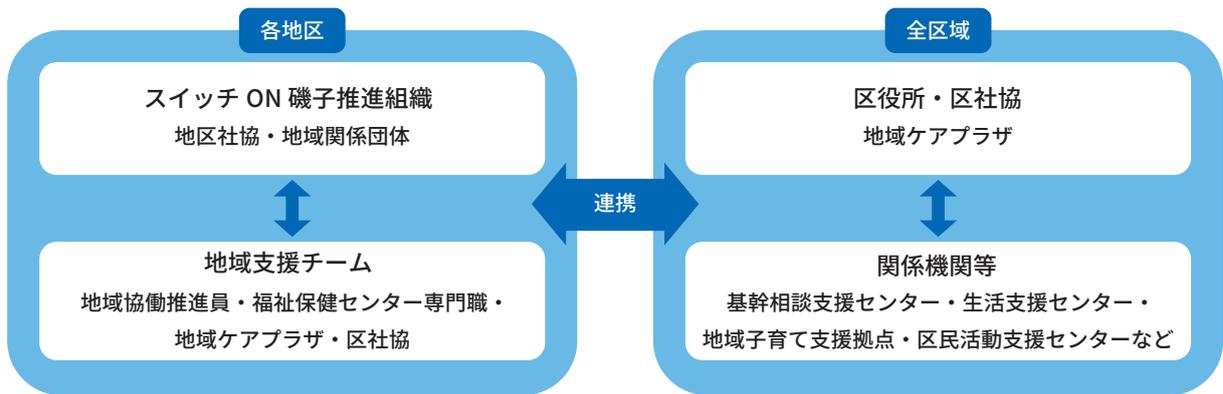
地域で活躍している団体は、ここに載っている団体以外にもたくさんあるよ。今回は計画の策定に関わる主な団体を紹介しているよ。



1. 計画の推進に向けて

■計画の推進体制について

- ・地区別計画は、地区連合町内会単位でスイッチON磯子推進組織のメンバーが中心となり、地域関係団体等と連携しながら推進していきます。各地区を区役所、区社協、地域ケアプラザから構成する地域支援チームが支援していきます。
- ・区全域計画は、区役所、区社協、地域ケアプラザが、区全域を対象とした関係機関等、様々な団体と連携しながら推進していきます。



■スイッチON磯子推進組織（地区別計画推進組織）【P.38 参照】

スイッチON磯子推進組織は、地区別計画を進めていく組織で、地区の自治会町内会長や地区社協、民生委員・児童委員等の代表者、地域で活動する団体の役員などが、地区別計画推進組織の運営を担っています。

■地域支援チーム

区役所・区社協・地域ケアプラザで構成する地域支援チームを連合町内会単位に設置し、地区別計画推進に向けて横断的に支援していきます。

<構成する主なメンバー>

●区役所

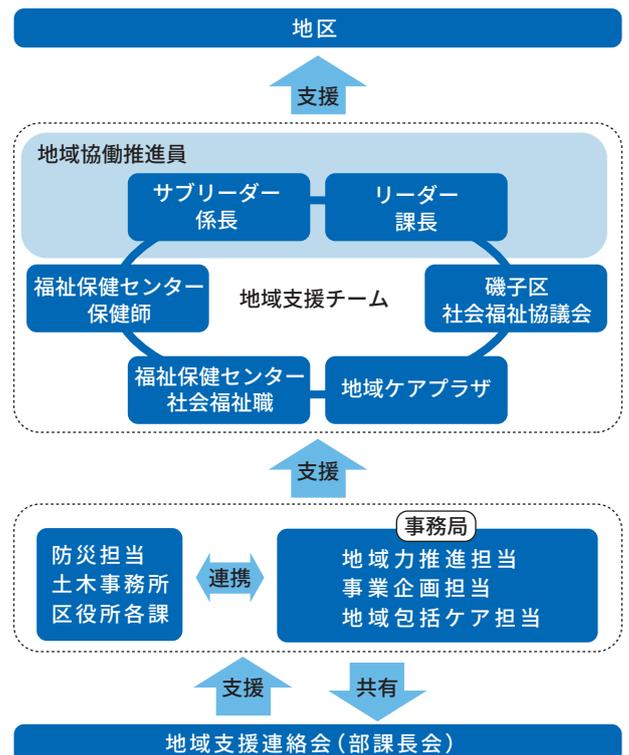
- ・地域協働推進員（地区担当）
- ・福祉保健センター専門職
- ・地域の課題に応じた担当部署

●区社協

- ・地区担当

●地域ケアプラザ

- ・地域活動交流コーディネーター
- ・生活支援コーディネーター
- ・主任ケアマネジャー・保健師等・社会福祉士（地域包括支援センター）



■ 区域で活動する関係機関

磯子区基幹相談支援センター (いそご地域活動ホームいぶき内)

障害福祉についての総合相談センターです。障害のある方が住み慣れた地域でその人らしい暮らしができるよう、様々なサポートをしています。身体・知的・精神の障害、高次脳機能障害、発達障害、難病の方、また障害者手帳を持っていない方も相談できます。

<主な機能>

- ・障害福祉サービスや制度の案内
- ・関係機関とのネットワークづくり
- ・権利擁護・虐待防止の取組(成年後見制度の申し立て支援)
- ・安心して暮らせる地域の体制づくり など

<今後、特に取り組んでいくこと>

- ・障害者手帳の有無にかかわらず、生きにくさを抱えている方の支援をします。
- ・誰もが暮らしやすい地域を目指し、関係機関や地域の方と幅広く連携していきます。



磯子区地域子育て支援拠点 (いそピヨ)

子育て中の保護者が安心して子育てできるように応援するとともに、地域で子育て支援にかかわっている担い手をサポートするための施設です。就学前の子どもや保護者が遊び、交流するスペースの提供、子育て相談、子育て情報の提供などを行っています。

<主な機能>

- ・親子の居場所
- ・ネットワーク
- ・子育て相談
- ・人材育成
- ・情報収集提供
- ・利用者支援(子育てパートナー) など

<今後、特に取り組んでいくこと>

- ・子育てに関する地域の情報が様々な方に届くよう、SNSなどを活用し、発信していきます。
- ・子育てを支える皆様と共に地域の子育てニーズにあった取組を検討し、身近な場所で進めていきます。



いそご区民活動支援センター (磯子区総合庁舎7階)

市民活動やボランティア活動、生涯学習活動を行っている方、これから始めようという方を応援します。何かをやりたい、始めたいという方の相談、情報の提供と発信、スキルアップ講座などを通じて、市民活動・地域活動を支援しています。

<主な機能>

- ・区民活動・生涯学習に関する相談
- ・各種講座開催
- ・情報収集及び提供
- ・場・機材の提供
- ・登録団体・講師の活動支援及び交流促進 など

<今後、特に取り組んでいくこと>

- ・地域で活動を始める方のきっかけづくりやすでに活動している方の支援を行いながら、市民活動と行政の協働を推進していきます。



磯子区生活支援センター

精神障害のある方々の地域生活を支援するとともに、ご家族への支援、地域への働きかけをしています。

<主な機能>

- ・相談支援
- ・地域のネットワークづくり
- ・場の提供
- ・生活サポート など

<今後、特に取り組んでいくこと>

- ・地域の関係機関等と連携しながら、精神障害の有無や程度に関わらず誰もが暮らしやすい地域づくりに力を入れていきます。
- ・精神障害についての理解が進むよう、啓発を進めながら、身近なところで、さりげない見守りや声をかけあえる関係づくりを目指します。



1

2

3

4

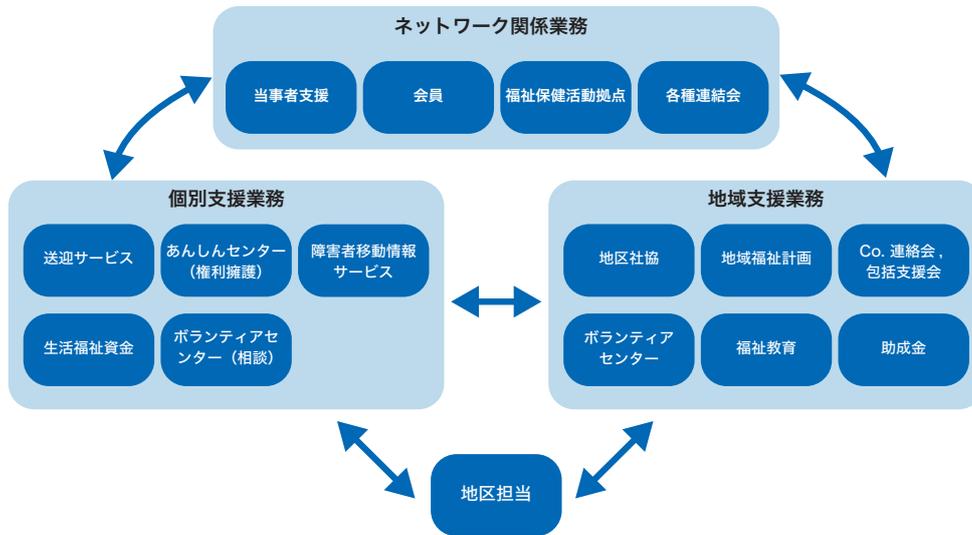
区社会福祉協議会

社会福祉法に基づいた民間法人で、地域住民福祉に関わる様々な施設や団体等により構成されている「協議会」です。「誰もが安心して自分らしく暮らせる地域社会をみんなでつくりだす」ことを活動理念としています。

区社協は、地域の福祉活動を応援するためのネットワークづくりや研修、活動への助成、ボランティアのコーディネート等のほか、個別の相談やサービス(権利擁護事業、移動情報センター、生活福祉資金等貸付)を行っています。

民間としての「自主性」と多くの人に支えられている「公共性」を併せ持っており、活動の財源には、会員からの会費や地域住民からの寄付である共同募金配分金等が生かされており、また多くの活動が地域のボランティアの皆さん等に支えられていることが特徴です。

民間団体である強みを生かし、多様なネットワークをつくり、地域づくりを進めていきます。



地域ケアプラザ(区内7ヵ所)

「地域の身近な福祉・保健の拠点」として、地域住民の福祉・保健活動やネットワークづくりや、住民主体による支えあいのある地域づくりを支援します。地域の中での孤立を防ぎ、支援が必要な人を把握し、それぞれの専門性を生かして総合的に支援していくとともに、地域の課題を明らかにして、地域住民とともに解決に取り組みます。

<地域ケアプラザの主な機能>

地域のボランティア等の活動・交流
自主事業の開催、情報の提供、活動の場の提供

地域包括支援センター
福祉保健に関する相談・支援

生活支援体制整備事業
地域の支えあいの推進

介護予防支援・居宅介護支援
ケアプラン作成

<地域ケアプラザの専門職>

地域活動交流コーディネーター
住民主体の地域づくりを関係機関と連携して支援します。

生活支援コーディネーター
高齢者が地域で暮らし続けるための地域づくりを支援します。

主任ケアマネジャー・保健師等・社会福祉士
(地域包括支援センター)
地域住民の保健医療の向上と福祉増進を目指し、包括的かつ継続的に心身の保持及び生活の安定のために必要な支援をします。

2. 計画の振り返りとスケジュール

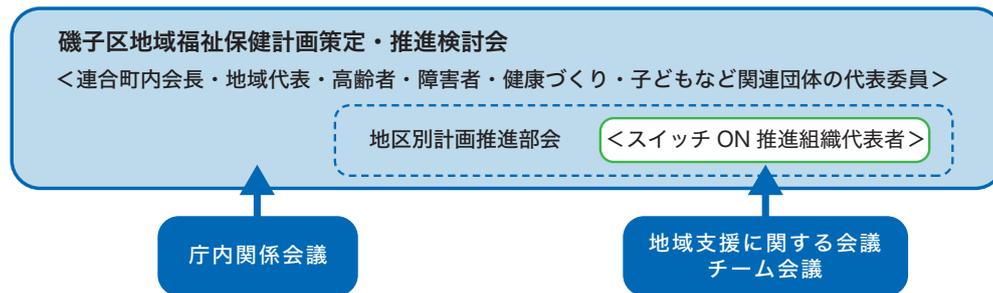
■ 第4期磯子区地域福祉保健計画会議体について

● 磯子区地域福祉保健計画策定・推進検討会

計画は地域の住民、住民組織、関係団体、地域ケアプラザ、区社協、区役所等の関係者が協力し、相互に連携しながら、推進していくものです。そこで、この計画に関わる各分野の関係者等で構成する策定・推進検討会で計画の策定、推進、振り返りに関する事項について協議します。

● 地区別計画推進部会【新設】

地区別計画は各地区のスイッチ ON 磯子推進組織が中心となって推進しています。第4期計画では新たに部会を設置し、地区別計画に関わる皆様と取組内容や課題などの情報共有を進め、振り返りを行うことで各地区の活動がさらに充実していくよう図っていきます。



■ 今後の振り返りについて

各地区での振り返りは地区別推進組織等で行い、その結果については地区別計画推進部会で共有していきます。また、策定・推進検討会で地区別計画推進部会の内容や区全域計画の振り返り結果を報告し、定期的に計画の進捗状況を確認していきます。

● 計画の振り返り時期

策定・推進検討会、地区別計画推進部会等にて取組内容や振り返り結果を報告し、定期的に計画の進捗状況を確認していきます。また、中間地点となる令和5年度には、中間振り返りを実施し、その結果を計画後半の取組内容に生かしていきます。令和6年度は、第4期計画期間の全体の振り返りを行い、その内容については、次期計画に反映していきます。

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
計画進捗確認	→				
振り返り・策定			中間振り返り	最終振り返り	次期計画策定
各種調査	調査		調査		調査

● 計画振り返り方法

振り返りシートによる進捗確認と中間期や最終期に実施するアンケートやインタビューなどを用いて、計画全体について振り返りをしていきます。

<進捗確認> 振り返りシート 毎年度、地域や関係各課等の取組内容を共有し、進捗状況を確認していきます。

<中間振り返り> アンケート 計画に設けた目指す姿の実現に向けて、どのような取組が推進されたのか、どのような仕組みができたのか、課題はどのようなものなのか、質的な評価により、振り返りを行います。

<最終振り返り> インタビュー・各種調査 基本目標に向けて取り組んできたことによって、目指す姿にどれだけ近づいたのか、課題はどのようなものか、質的な評価により、振り返りを行います。福祉保健に関する統計データ、調査等の結果を用いて、磯子区全体を取り巻く状況を振り返ります。

方法	振り返りシート	アンケート	インタビュー	調査等
内容	取組内容や進捗状況を確認する	取組の推進状況や仕組みの広がり状況について把握する	目指す姿にどれだけ近づいたかなど、取組の成果を把握する	取組成果や磯子区の状況を確認する

1. 策定の経過

■ 策定の経過

		区全域計画	地区別計画
令和元年度	5月～9月	グループインタビュー(20団体・9地区 計236名参加) 団体アンケート(31団体)	
	10月	第1回策定検討会	
	12月	(各種分野部会)	第1回策定部会 (地区部会)
	2月	(各種分野部会)	第2回策定部会 (地区部会)
		区役所各課・関係団体のヒアリング	キックオフ会議 (新型コロナの影響で2地区のみ)
	3月	第2回策定検討会(書面開催)	
令和2年度		(各種分野部会)	第3回策定部会 (地区部会)
		第3回策定検討会	
	8月～	区役所各課・関係団体との調整等	キックオフ会議 (令和元年度未実施の7地区で実施)
	10月～	(各種分野部会)	第4回策定部会 (地区部会)
			第2回ワークショップ
	11月～	第4回策定検討会	
12月～4月		第3回ワークショップ	
令和3年度	5月	区民意見募集	地区別計画完成
	7月	第5回策定検討会	
	9月	第4期磯子区地域福祉保健計画確定	

令和2年2月以降は、新型コロナウイルス感染拡大防止の対策(人数・時間・場所・方法や消毒・マスク装着等)をしつつ実施してきましたが、緊急事態宣言中は何度か延期することもありました。

■ 区民意見募集

- ・実施期間 令和3年5月6日～令和3年6月4日
- ・ご意見総数は85件でした
- ・いただいたご意見のうち33件について、計画に反映しました
- ・参考・その他のご意見については、関係部署・機関・組織と共有しました



みなさまからの様々なご意見、ありがとうございました！



■策定推進検討会委員(平成31年度～令和3年度策定)

(敬称略)

所属等			委員名	
各種 団体 代表	1	磯子区医師会	地域包括ケアシステム事業部会 理事	北村 剛彦
	2	磯子区社会福祉協議会当事者団体部会	部会長	上杉 惇
	3	磯子区スポーツ推進委員連絡協議会	副会長	佐藤 孝明
	4	磯子区青少年指導員協議会	副会長	関根 健(H31) 小森 めい子(R2～)
	5	磯子区内障害者施設	いそご地域活動ホームいぶき施設長	森 淳
	6	磯子区内子育て支援活動団体	NPO法人 夢・コミュニティ・ネットワーク 理事	坂本 寿子
	7	磯子区保健活動推進委員会	副会長	石川 悦代
	8	磯子区民生委員児童委員協議会	副会長	高松 弘子
	9	磯子区老人クラブ連合会	副会長	服部 元彦
	10	磯子区社会福祉協議会	副会長	遠藤 洋子(H31) 荒井 章代(R2～)
地区 代表	11	根岸地区	根岸地区連合町内会 会長	横田 秀昭
	12		ハッピー根岸推進委員会 推進委員	須川 さよ子
	13	滝頭地区	滝頭地区連合町内会 会長	小川 祐司
	14		スイッチON磯子滝頭地区推進委員会 事務局長	古知屋 多恵子
	15	岡村地区	岡村地区連合町内会 会長	三澤 繁次(H31～R2) 宮澤 章(R3)
	16		岡村地区スイッチON磯子推進委員会 事務局長	小島 治夫(H31～R2) 釣井 清(R3)
	17	磯子地区	磯子地区連合町内会 会長	内藤 吉夫
	18		磯子地区福祉保健計画推進委員会 会計	平戸 榮次
	19	汐見台地区	汐見台自治会連合会 会長	岡 道子
	20		スイッチON磯子汐見台地区推進委員会 会長	屋代 昭治
	21	屏風ヶ浦地区	屏風ヶ浦地区連合町内会 会長	齊藤 陸男(H31～R2) 遠山 秀俊(R3)
	22		スイッチON磯子屏風ヶ浦地区推進委員会 副会長	土屋 東
	23	杉田地区	杉田地区連合町内会 会長	須田 幸雄
	24		スイッチON磯子杉田地区推進委員会 会長	久保 雅己
	25	上笹下地区	上笹下連合自治町内会 会長	田邊 実
	26		スイッチON磯子上笹下地区推進協議会 副会長	金子 光則
	27	洋光台地区	磯子区連合町内会長会 会長 洋光台連合自治町内会 会長	三上 勇夫
	28		スイッチON洋光台推進協議会 事務局長	武内 喜久夫

地区部会	
ハッピー根岸推進委員会 推進委員	須川 さよ子
スイッチ ON 磯子滝頭地区推進委員会 事務局長	古知屋 多恵子
岡村地区スイッチ ON 磯子推進委員会 会長	小島 治夫
磯子地区福祉保健計画推進委員会 会計	平戸 榮次
スイッチ ON 磯子汐見台地区推進委員会 会長	屋代 昭治
スイッチ ON 磯子屏風ヶ浦地区推進委員会 副会長	土屋 東
スイッチ ON 磯子杉田地区推進委員会 会長	久保 雅己
スイッチ ON 磯子上笹下地区推進協議会 副会長	金子 光則
スイッチ ON 洋光台推進協議会 事務局長	武内 喜久夫

各種分野部会	
磯子区民生委員児童委員協議会 副会長	高松 弘子
磯子区老人クラブ連合会 副会長	服部 元彦
磯子区青少年指導員協議会 副会長	小森 めい子
磯子区内子育て支援活動団体 NPO 法人夢・コミュニティ・ネットワーク 理事	坂本 寿子
磯子区民生委員児童委員協議会 主任児童委員	新目 佳子
磯子区子ども会連絡協議会 安全共済担当理事	関口 ヒロ子
磯子区スポーツ推進委員連絡協議会 副会長	佐藤 孝明
磯子区保健活動推進委員会 副会長	石川 悦代
磯子区食生活等改善推進委員会 副会長	正木 エミ子
磯子区内障害者施設 いそご地域活動ホームいぶき 施設長	森 淳
磯子区社会福祉協議会 当事者団体部会 部会長	上杉 惇

2. 用語解説

50音	用語	内容
S	SNS	ソーシャル・ネットワーキング・サービスの略。「人同士のつながり」を電子化するサービスのこと。Twitter(ツイッター)、Facebook(フェイスブック)、LINE(ライン)やInstagram(インスタグラム)などが知られている。
い	委嘱委員	自治会や町内会から推薦をうけて、国、都道府県、市区町村などから委嘱され、特定の分野について役割をお願いし、様々な公益的な活動をすすめている人たちのこと。民生委員・児童委員、主任児童委員、青少年指導員、スポーツ推進委員、保健活動推進員、消費生活推進員、環境事業推進員などがある。
い	いわゆるごみ屋敷	ごみなどの物が屋内や屋外に積まれることにより、悪臭や害虫の発生、崩落や火災の危険性が生じるなど、本人または近隣の生活環境が損なわれている状態。当事者が地域社会から孤立している場合が多く、近年社会問題化している。
げ	元気づくりステーション	横浜市が支援している、主体的・継続的に介護予防活動に取り組むグループのこと。歩いていける身近な場所で、仲間と一緒に『体操』、『筋トレ』、『ウォーキング』、『健康マージャン』、『コグニサイズ』など様々な介護予防・健康づくりに取り組んでいる。
こ	こども食堂	地域住民やNPO、企業等が、子どもが一人でも来れるように、無料または低料金で子どもたちに食事を提供する場。
こ	子どもの貧困	子どもが経済的困窮の状態におかれ、発達の諸段階におけるさまざまな機会が奪われた結果、人生全体に影響を及ぼすほどの深刻な不利を負うこと。 2018年の17歳以下の子どもの貧困率は13.5%で、7人に1人が貧困と言われる。
こ	コミュニケーションボード	言葉だけでなく、わかりやすい絵記号や写真を用いることで、コミュニケーションがスムーズになるよう工夫されたボードやカードのこと。自閉症や知的障害のある人だけではなく、外国の方や高齢者、小さな子どもにもわかりやすいユニバーサルツールとして利用が広がっている。
さ	災害時要援護者	高齢者や障害者、乳幼児、傷病者、外国人など、災害が起きた時、なんらかの手助けが必要な人のこと。
さ	サロン	高齢者や障害者、子育て世代の人等、様々な住民が、身近な地域でのお茶会や趣味活動、レクリエーション活動を通じて、住民同士の交流やつながりづくりを深める活動の場のこと。
せ	生活支援体制整備事業	日常生活圏域ごとに「生活支援コーディネーター」と「協議体」を配置して、地域住民による助け合い活動を推進することで、地域全体で高齢者の生活を支える体制づくりを進めるもの。高齢者が住み慣れた地域で自分らしく生き生きと人生の最後まで暮らし続けられるように「生活支援・介護予防・社会参加」を推進していく事業。

50音	用語	内容
せ	生活福祉資金等貸付事業	低所得世帯、障害者や日常生活上療養または介護を必要とする高齢者のいる世帯などに対して、資金の貸付と必要な援助を行うことによって、その世帯の生活の安定と経済的自立を図ることを目的とした事業。社会福祉協議会が実施。
せ	成年後見制度	認知症の方、知的障害のある方、精神障害のある方など判断能力が不十分な人の財産管理や身上監護を、代理権や同意権・取消権が付与された成年後見人等が行う仕組みのこと。
ぜ	善意銀行	善意に基づく金銭・物品をお預かりし、必要とされる方々に配分する仕組みで、銀行の機能になぞらえて「善意銀行」と呼んでいる。社会福祉協議会が実施。
だ	ダブルケア	子育てと親の介護を同時に抱えている状態。晩婚化、出産年齢の高齢化、少子高齢化、核家族化の問題が集中して顕在化したものとも考えられる。「育児と介護は女性がやるもの」という価値観のもと、女性が問題を抱えがちになることに加え、仕事との両立も困難となりがちで経済的にも厳しくなりがちと言われる。
ち	地域防災拠点	横浜市域で1箇所でも震度5強以上が観測された場合に開設され、運営は、地域、学校、区役所等で構成された「地域防災拠点運営委員会」が行う。身近な市立の小・中学校等が指定されており、防災備蓄庫に、防災資機材・食料等の備蓄がある。また、被害情報等の情報受伝達手段として、デジタル移動無線を配備している。
は	8050問題	ひきこもりが長期化し、80代の親と50代のひきこもる子が同居する世帯が、高齢の親の年金などの収入で生活する状況が増えている社会問題。介護と生活困窮が同時に生じることや社会的に孤立しており支援を受けにくい等の様々な問題を抱えていることが多い。
ふ	フードドライブ	家庭で余っている食べ物を学校や職場などに持ち寄りそれらをまとめて地域の福祉団体や施設、フードバンクなどに寄付する活動。
ふ	ふれあい助成金	市民の自発性のもと、市内で行われる非営利な地域福祉推進事業や障害福祉推進事業の支援を目的とした助成金。支援が必要な人への活動や人材育成等が対象。横浜市内の社会福祉協議会が実施。
ふ	福祉教育	子どもから大人まで全ての人を対象とし、学校や地域でのボランティア体験・交流・出前授業等を通じて、高齢・障害等の当事者理解や身近な地域の福祉課題の理解等を進める取組。
も	もしも手帳	人生の最終段階での医療・ケアについての希望を意思表示するために記載する手帳のこと。元気なうちから家族等の信頼のおける人と話す手助けになるように工夫され、お薬手帳と一緒に携帯できるようなコンパクトなサイズになっている。

エスディージーズ

SDGs(Sustainable Development Goals=持続可能な開発目標)とは

2015年の国連サミットで採択された2016年から2030年までの国際目標です。17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人として取り残さない」ことを誓っています。

この中には「①貧困をなくそう」「②飢餓をゼロに」「③すべての人に健康と福祉を」「④質の高い教育をみんなに」「⑩人や国の不平等をなくそう」といった、福祉と関係の深い目標もあります。「⑪住み続けられるまちづくりを」「⑫つくる責任 つかう責任」などの環境に関する目標も多く、企業として取り組まれている例も増えており、廃棄物を減らすための寄付活動などにも結び付いています。

それぞれの目標は単独でなく互いに関係しあい、「⑰パートナーシップで目標を達成しよう」とあるようにみんなで協力しあって目指していくものです。また、この目標の基礎には「誰一人取り残さない」という考え方があり、地域福祉保健計画と重なる点が多くあります。

国際目標というと大きなことと考えてしまいがちですが、身近な場所で皆さんが行っている活動が地域福祉保健計画の推進やひいてはSDGsにもつながっています。まずは身近な活動と17の目標を照らし合わせて考えてみませんか。



地域包括ケアシステム

地域包括ケアシステムとは、高齢者が可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい・介護・医療・介護予防・生活支援が一体的に提供される、支援・サービス提供体制のことです。団塊の世代が75歳以上の後期高齢者となる2025年(令和7年)を目途に構築することを目指しています。



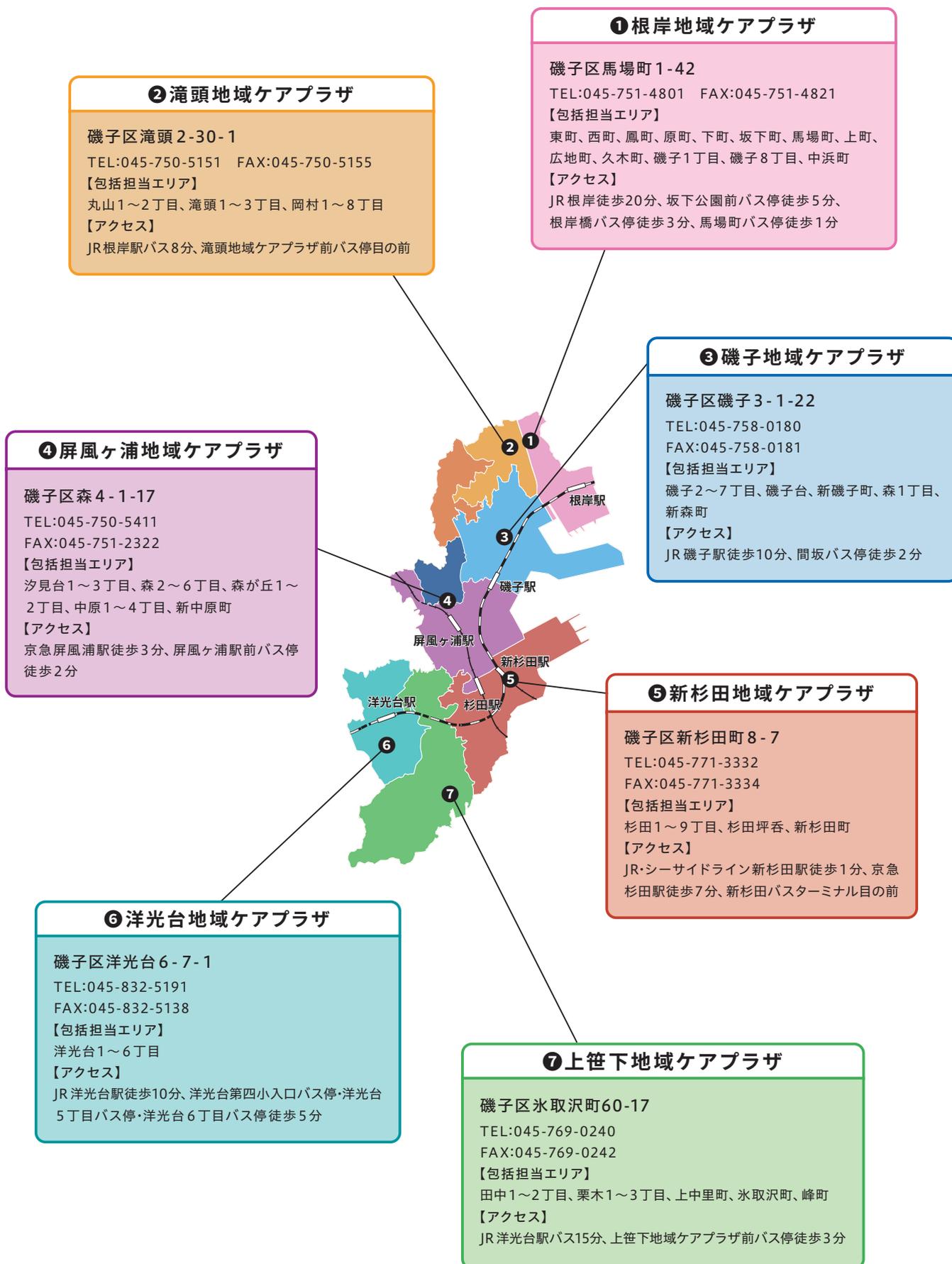
磯子区では、平成29年度(2017年度)に、「横浜型地域包括ケアシステムの構築に向けた磯子区行動指針(※)」を策定し、区域の関係者が連携して、一体的なケアが提供できる仕組みの実現を目指しています。

「スイッチ ON 磯子」との関係では、両者が調和を図りながら活動を推進してきました。引き続き、互いの特徴を生かしながら進めていきます。

※令和3年度(2021年度)の改定にて、「区行動指針」から「区アクションプラン」に名称変更

■地域ケアプラザの紹介

地域ケアプラザは地域の福祉保健活動の拠点施設です。



1

2

3

4

資料



第4期 スイッチON磯子

検索

横浜市磯子区役所 福祉保健課

〒235-0016
横浜市磯子区磯子3-5-1
TEL 045-750-2442 FAX 045-750-2547
EMAIL is-fukuho@city.yokohama.jp

社会福祉法人 横浜市磯子区社会福祉協議会

〒235-0016
横浜市磯子区磯子3-1-41
TEL 045-751-0739 FAX 045-751-8608
EMAIL info@isoshakyo.com